

取扱説明書

SHIBAURA

スーパー

SS1000A



当製品を、安全に正しくお使いいただくために、必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使い方をした場合、事故をまねくおそれがありますので安全には十分注意して作業してください。お読みになった後は、必ず製品と一緒に大切に保管してください。



株式会社IHシバウラ

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

このたびは、**シバウラスーパー**をお買上げいただきありがとうございました。

この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。

本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡してください。

この取扱説明書および安全銘板を、紛失または損傷された場合は、速やかにお買上げいただいた販売店にご注文ください。

この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「**安全に作業をするために必ずお守りください**」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。

ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買上げいただいた販売店へご相談ください。

マスターキーとスペアキーは、別々にして大切に保管してください。

おことわり

本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

説明記号の見方



その警告文に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、けがを負うおそれのあるものを示します。

[重要]

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

本製品の使用 目的について

本製品は、芝生の清掃機ですので、それ以外には使用しないでください。使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。(保証適用除外事項は、保証書をご覧ください。)

本文の概要

1章 安全に作業をするために必ずお守りください

安全に関する重要な内容を、代表的な作業項目について説明しています。個別の作業については、各項目をみてください。また、各安全銘板の内容と貼付け位置を示しています。

2章 保証とサービスについて

保証とアフターサービスについて説明しています。

3章 各部のなまえと各操作部のはたらき

本文中、よく使う部品の名称の紹介と、よく使う操作レバー、および部品の位置とはたらきについて説明しています。

4章 運転と作業のしかた

エンジンの始動から走行のしかた、および荷箱の使用のしかたを説明しています。

5章 作業後の手入れについて

機械を最良の状態にしておくために、毎作業後および長期間使用しないときの、手入れのしかたを説明しています。

6章 手入れと点検・調整について

長期間故障がなく、本機を安全に使用するための点検・整備のしかたを説明しています。

7章 不調診断

正常に作動しないときの点検・処置のしかたを説明しています。修理に出す前に確認してください。

8章 その他

仕様、および主要消耗部品について説明しています。

9章 電気回路図

電気回路図を載せています。

目次

はじめに	1
お願い	1
おことわり	1
説明記号の見方(危険・警告・注意・重要)	2
本製品の使用目的について	2

本文の概要	3
--------------	----------

1章 安全に作業をするために必ずお守りください	6
1．作業者の体調・服装について	6
2．使用する機械について	7
3．運転前・作業前点検をするとき	8
4．作業をするとき	14
5．トラックへの積込み・積降しをするとき	19
6．格納をするとき	22
7．安全銘板の貼付け位置	23

2章 保証とサービスについて	25
保証書は大切に保管してください	25
アフターサービスをお受けになるときは	25

3章 各部のなまえと各操作部のはたらき	26
----------------------------	-----------

4章 運転と作業のしかた	28
1．運転前の点検	28
2．燃料の点検・給油のしかた	30
3．各部の操作のしかた	30
4．エンジンの始動・停止のしかた	31
5．発進・旋回・変速・停止のしかた	34
6．作業のしかた	38
7．坂道での運転のしかた	43
8．作業場への出入りのしかた	44
9．トラックへの積込み・積降しのしかた	44

5章 作業後の手入れについて 46

- 1. 作業後の手入れ 46
- 2. 長期間使用しない場合の手入れ 47

6章 手入れと点検・調整について 50

- 1. 定期点検一覧表 51
- 2. 各部のグリスアップのしかた 52
- 3. 各部オイルの点検・交換のしかた 54
- 4. エアクリーナの点検・洗浄のしかた 56
- 5. 燃料こし器の掃除のしかた 57
- 6. 燃料ホース・電気配線の点検のしかた 57
- 7. 点火プラグの点検のしかた 58
- 8. ヒューズの点検・交換のしかた 58
- 9. バッテリーの点検、整備のしかた 59
- 10. タイヤ空気圧の調整のしかた 61
- 11. ハンドルの点検のしかた 61
- 12. ブレーキの点検のしかた 62
- 13. クラッチペダルの点検のしかた 63
- 14. ブラシの点検・交換のしかた 63
- 15. ブラシクラッチレバーの点検のしかた 64
- 16. 締付けするところ 65

7章 不調診断 66

- 1. エンジンがかからない 66
- 2. エンジンの力がない 67
- 3. 各部に振動が多い 67

8章 その他 68

- 1. 主要諸元 68
- 2. 主要消耗部品 69

9章 電気回路図 70

1章 安全に作業をするために必ずお守りください

本機は芝生の清掃作業を目的としており、小型特殊自動車の型式認定を受けていません。法令により公道走行は禁止されていますのでしないでください。

ここに記載されている注意項目は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。

ここに記載されている注意項目を守らないと死亡を含む傷害事故や機械の破損が生じるおそれがあります。

ご購入された製品によっては該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。

1. 作業者の体調・服装について

⚠ 警告

こんなときは運転しない

過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。

睡眠不足の人。

視力不足のため表示内容が読めない人。

取扱説明書の内容が理解できない人。

酒を飲んだとき。

妊娠しているとき。

18歳未満の人。

運転が未熟な人。

【守らないと】

思わぬ事故の原因になります。



作業に適した服装

はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した、防護具などを付け、だぶつきのない服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。



2. 使用する機械について

▲ 注意

点検、整備をおこなう

使用前と使用後には必ず機械の点検、整備をしてください。特に、ブレーキペダル・ハンドル・クラッチペダルなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障を生じるおそれがあります。



機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

説明不足により、機械の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。



定期点検、整備を受ける

1年毎に定期点検、整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料ホースは2年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。



安全銘板が破損しているときは、新しいものと交換する

本機には、操作安全銘板が貼り付けてあります。内容を十分に理解して、その内容に従ってください。

操作銘板が汚れで読めなくなった場合は、きれいにふき取り、読めるようにしてください。またはがれて紛失した場合などは、販売店に注文し、新しい銘板を貼り付けてください。

【守らないと】

誤った操作により、事故をひきおこす原因になります。



3. 運転前・作業前点検をするとき

⚠ 危険

荷箱下での点検、整備時は荷箱落下防止金具を使用

【守らないと】

機械の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。



注油・給油はエンジンが冷えてから

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油をしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれがあります。

エンジンが熱い間は
注油、給油はしないで...



指定の燃料を使用

取扱説明書で指定している燃料を使用してください。

【守らないと】

性能が落ちたり火災事故をおこすおそれがあります。

指定外の燃料は
使わないで!



燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火し、火災をおこすおそれがあります。



⚠️ 危険

燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料補給後は、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。



燃料もれに注意

燃料ホースが破損していると、燃料もれをおこします。必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。

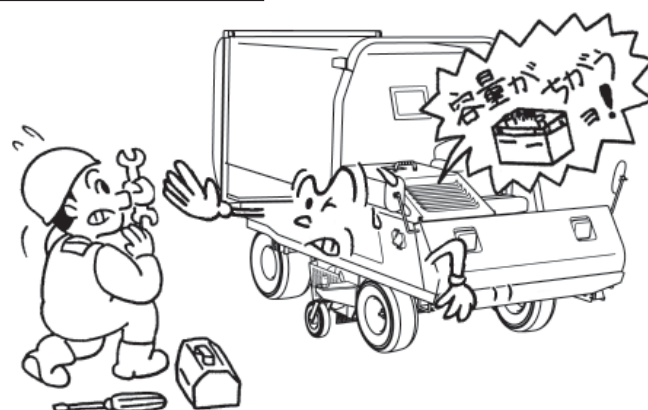


必ず指定のバッテリーを使用

バッテリーを交換するときは、必ず指定のバッテリーを使用してください。

【守らないと】

火災の原因となることがあります。



バッテリーの点検は火気厳禁

バッテリーの点検・充電時は火気厳禁です。

【守らないと】

バッテリーに引火し、爆発して火傷などを引き起こすおそれがあります。



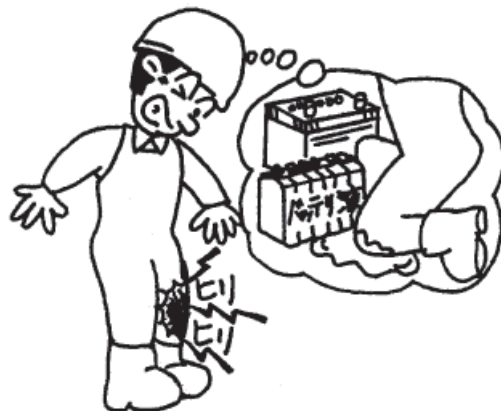
⚠ 危険

バッテリー液は体につけない

バッテリー液を身体や服につけないようにしてください。万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

【守らないと】

火傷をしたり、服が破れるおそれがあります。



バッテリー取付け、取外しは正しい手順でバッテリーを取付けるときは⊕側を先に取付け、取外すときは⊖側から外します。

【守らないと】

ショートして、火傷や火災事故を引き起こすおそれがあります。



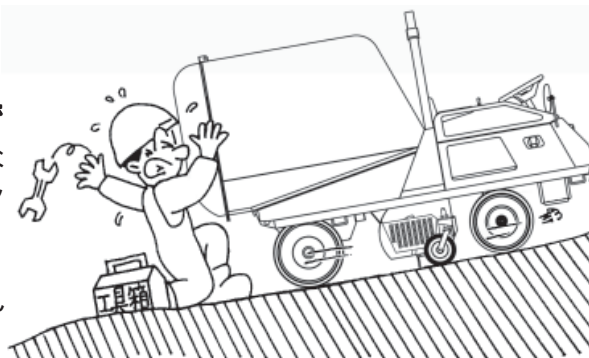
⚠ 警告

点検、整備は平坦な安定した場所で

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、タイヤには車止めをして点検、整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



バッテリー液を「下限 (LOWER)」以下にしない

バッテリー液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。

【守らないと】

「下限」以下になると、容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。



警告

機械の改造禁止

純正部品以外の部品を取付けないでください。
改造をしないでください。

【守らないと】

機械の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。



タイヤは必ず点検

タイヤの空気圧を標準空気圧に調整してください。
タイヤに亀裂がないか確認してください。

【守らないと】

タイヤがパンクして思わぬ事故をまねくおそれがあります。



タイヤホイール取付ボルトの締付け確認とホイールの傷のチェック

タイヤホイールの取付けボルトは、確実に締付けてあるか確認してください。そのときにホイールに傷がないかも確認してください。

【守らないと】

タイヤが外れたりして思わぬ事故をまねくおそれがあります。



電気部品・コードを必ず確認

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接続部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして火災事故をおこすおそれがあります。



警告

排気ガスには十分に注意

閉切った屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたるおそれがあります。



**マフラー・エンジン回りのゴミは
取除く**

マフラーやエンジン周辺部に芝カス・ゴミ・燃料などが付着していないか、またマフラーに亀裂や腐食などの異常がないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故やオーバーヒートを引きおこすことがあります。



注意

ブレーキ・ハンドルは必ず点検

ブレーキの効きが悪かったり、片効きしていないか、またハンドルに著しいガタや遊びがないか、点検してください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。

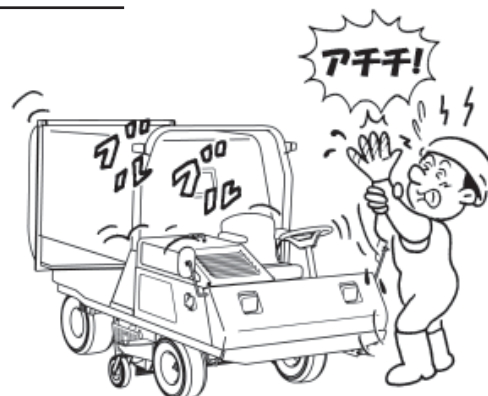


**点検、整備は高温部が十分
冷えてから**

マフラーやエンジンなどの高温部分が十分に冷えてから点検、整備をしてください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこしたり、火傷をするおそれがあります。



▲ 注意

点検、整備中はエンジン停止

点検、整備、修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きや巻込まれてけがをするおそれがあります。



部品を交換したり、巻付いた草などを 取除くときはエンジン停止

【守らないと】

機械に巻込まれて重傷を負うおそれがあります。



高圧オイルに注意

油圧ホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、点検や修理などで、継手やホースを外す前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは、皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故をおこすおそれがあります。



カバー類は、必ず取付ける

点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。

【守らないと】

機械に巻込まれたりして、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



4. 作業をするとき

⚠ 危険

後進するときは低速で

後進で移動するときは低速で行い、後方に障害物がないか確認してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。



移動時は路肩に注意

坂道・路肩・障害物乗越え・溝のある場所・軟弱地などでは、十分注意してスピードを落として走行してください。

【守らないと】

転倒・転落などの事故によりけがをするおそれがあります。



荷箱の下は、立入厳禁

荷箱の下にもぐったり、足を踏入れたりしないでください。

【守らないと】

何らかの原因で荷箱が下がったときに、傷害事故をおこします。



⚠ 警告

エンジン始動時は周囲確認

エンジン始動時は、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



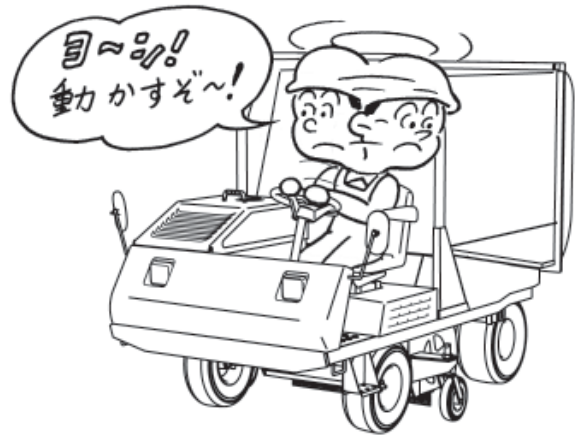
⚠ 警告

周囲に合図してゆっくりと発進

エンジン始動時は、必ず駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置にし、周囲の人に合図をしてからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

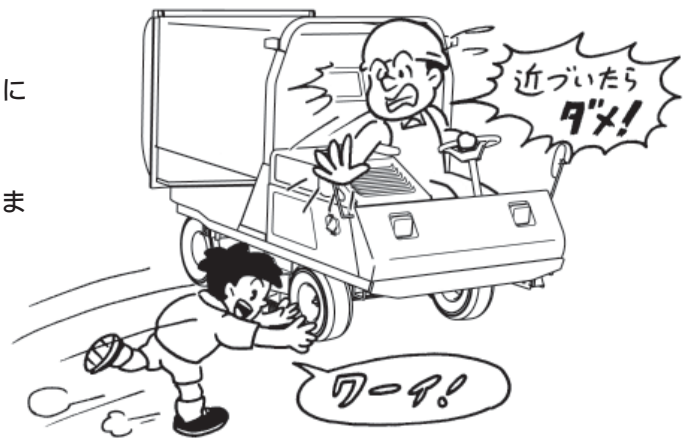


人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



燃えているゴミの上や その近くは走行禁止

【守らないと】

燃料やオイルなどに引火し、火災になるおそれがあります。



過積載禁止

最大作業能力以内で運搬してください。特に坂道では芝カスを軽くして作業してください。

【守らないと】

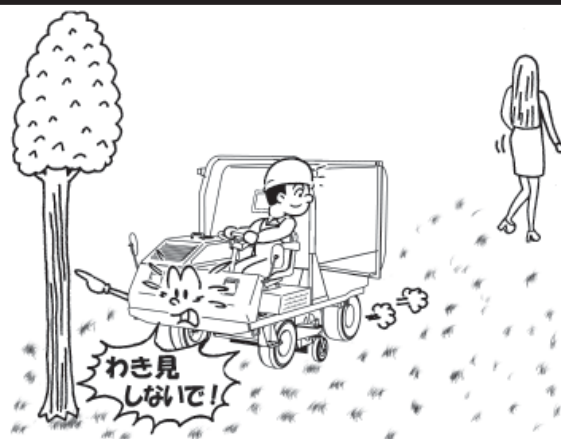
転倒などにより機械の破損をまねき、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



警告

**わき見運転や手放し運転禁止
【守らないと】**

傷害事故の原因となります。



ブレーキのまま走行禁止

ブレーキペダルを踏んだまま、または駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置のままで走行しないでください。

【守らないと】

ブレーキが効かなくなり、けがをするおそれがあります。

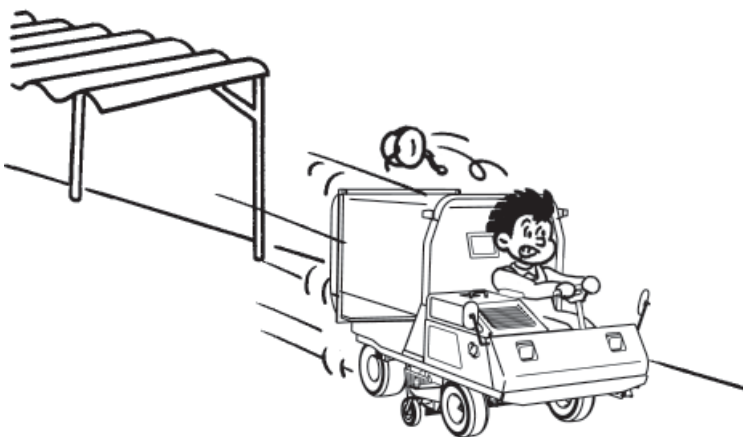


ブレーキの使い過ぎ禁止

急な下り坂での走行は十分注意して行ってください。いつでもブレーキを掛けられる姿勢で運転してください。

【守らないと】

ブレーキが効かなくなり、事故をおこすおそれがあります。

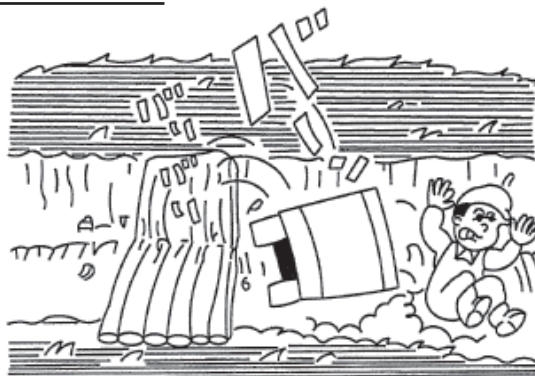


溝を渡るときはあゆみ板を使用

作業場に入るとき、溝を渡るとき、軟弱な場所を通るときは、必ずあゆみ板を使用してください。あゆみ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による事故をまねくおそれがあります。



⚠ 警告

急坂道・あゆみ板の上では変速禁止

急坂道やあゆみ板の上では、「前進1」、「後進R」の低い速度で走行し、途中での変速はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、事故をおこすおそれがあります。

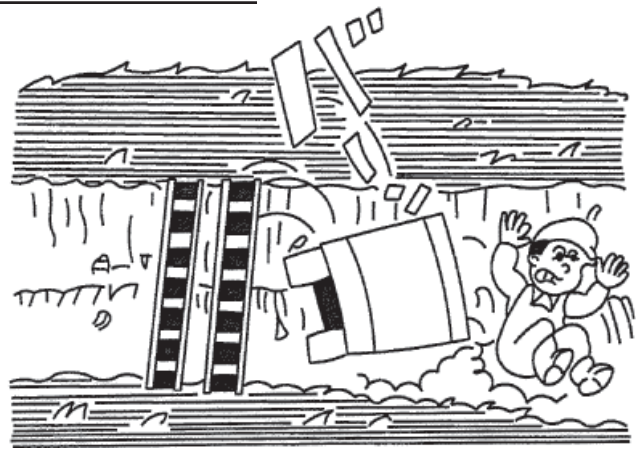


坂道やあゆみ板の上では、だ性運転禁止

坂道やあゆみ板の上での走行は、十分注意して低い速度で走行してください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、転落などの事故をまねくおそれがあります。



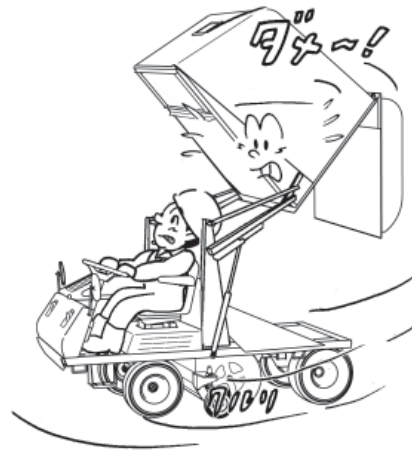
荷箱をハイダンプした状態で走行禁止

荷箱をハイダンプした状態で走行しないでください。

【守らないと】

バランスが崩れやすくなり、そのうえ障害物の確認ができません。

死亡事故や重大な傷害、物的損害をまねくおそれがあります。



坂道では、ハイダンプ作業禁止

坂道では、ハイダンプを利用した芝カスの排出はしないでください。

【守らないと】

本機のバランスが崩れ、死亡事故や重大な傷害、物的損害をまねくおそれがあります。



警告

5°以上の傾斜地での使用禁止

5°以上の傾斜地では横転の危険が高いため使用しないでください。

【守らないと】

死亡、または重傷を負う危険性があります。



注意

芝の清掃作業以外は使用禁止

芝の清掃以外の作業や改造などは決してしないでください。また、公道での走行はしないでください。

【守らないと】

思わぬ事故をまねくおそれがあります。



くわえたばこでの作業厳禁

【守らないと】

火災など、思わぬ事故の原因となります。

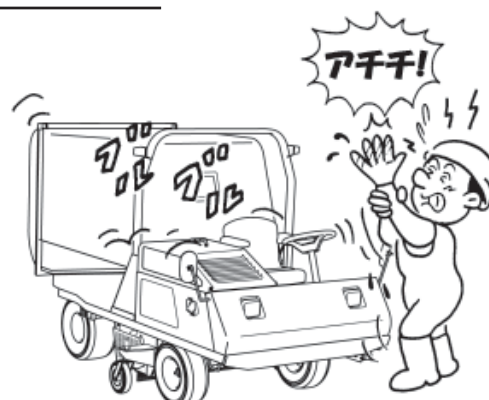


マフラーの高温に注意

運転中およびエンジン停止直後の、マフラー・エンジンは高温ですので触れないでください。

【守らないと】

火傷をするおそれがあります。



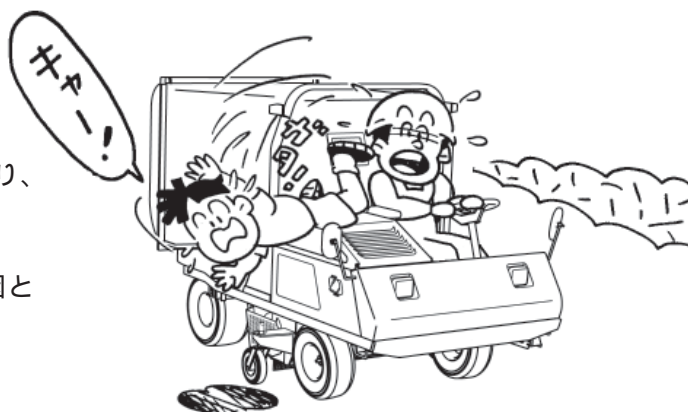
▲ 注意

運転席以外には乗らない

走行中は運転席以外に乗って運転したり、人を乗せないでください。

【守らないと】

転落などにより、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、十分スピードを落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、十分速度を落としてください。

【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。



機械から離れるときは平坦地に置きエンジン停止

機械から離れるときは、平坦で安定した場所に置きエンジンを停止し、駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。

【守らないと】

機械が動きだし、事故の原因となります。



5 . トラックへの積み込み・積降しをするとき

▲ 警告

強度・長さ・幅の十分あるあゆみ板を使用

積み込み・積降しをするときは、平坦で交通の安全な場所に、トラックのエンジンを止め、動かないように駐車ブレーキを掛け、車止めをしてください。使用するあゆみ板は、強度・長さ・幅が十分あり、スリップしないものを選んでください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

《あゆみ板の基準》

- 長さ...トラックの荷台高さの4倍以上。
- 幅.....本機のタイヤ幅の1.5倍以上。
- 強度...本機の総重量に十分耐えられるもの。(1本当たり)
- 表面...すべり止めのあるもの。
- 形状...固定フックのあるもの。

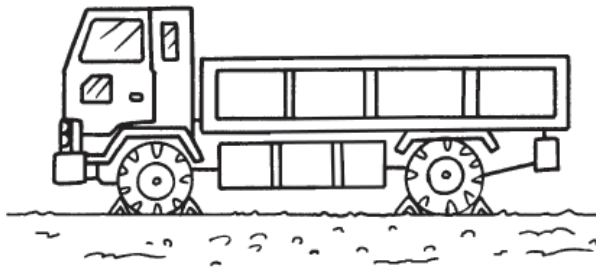
警告

トラックには必ず車止めを

積込むトラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、サイドブレーキを掛けて車止めをしておいてください。

【守らないと】

トラックが動いて転落事故などをまねくおそれがあります。

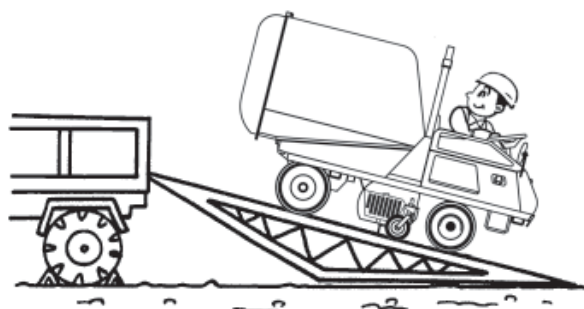


あゆみ板は確実に掛ける

あゆみ板をそれぞれのタイヤに合わせ、フックをトラックの荷台へ確実に掛けてください。

【守らないと】

あゆみ板が外れて本機が転落・転倒し、死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

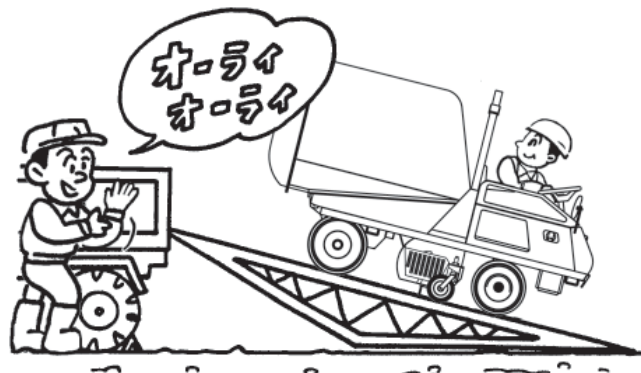


積込み・積降し作業は誘導者をつけて

トラックなどからの積込み・積降し作業は、誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



積込み・積降し作業中、機械の前には絶対立たない

トラックなどからの積込み・積降し作業中は、機械の直前には絶対に立たないでください。

【守らないと】

傷害事故をまねくおそれがあります。



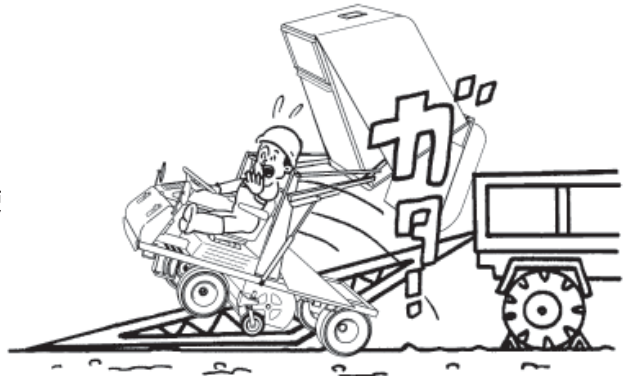
⚠ 警告

荷箱を下げてあゆみ板を使用

あゆみ板を使用して積込み、積降しをするときは、本機の荷箱を下げ、芝カスを載せないで使用してください。

【守らないと】

バランスが崩れ、転落などの事故の原因になります。

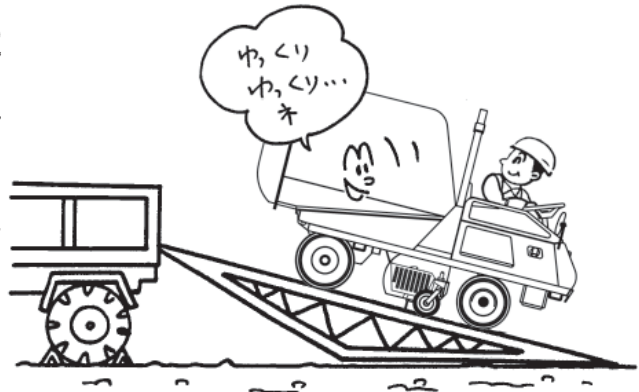


登るときは後進、降りるときは前進でおこなう

積込みの場合「後進R」、積降しの場合は「前進1」の低い速度で行ってください。

【守らないと】

バランスを崩し転落などの事故を引きおこすおそれがあります。

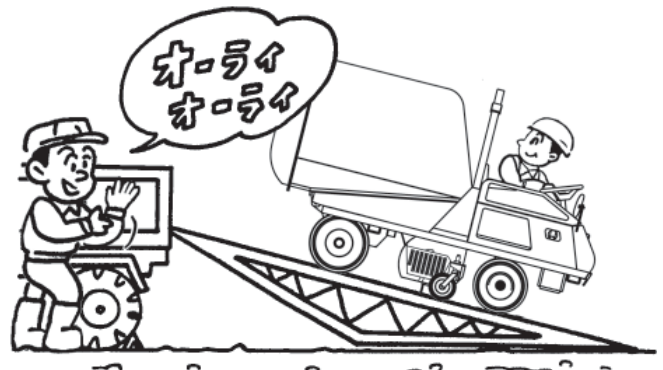


あゆみ板の上ではハンドル操作厳禁

ハンドルをしっかり握りあゆみ板の上で進路変更をすることがないように前もって進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えるための、ハンドル操作は絶対にしないでください。方向を直す場合は、平坦な場所に戻ってから行ってください。

【守らないと】

転落などの事故の原因となります。



ロープでトラックに確実に固定

トラックに載せて移動するときは、本機のエンジンを停止させ駐車ブレーキを掛け、燃料コックを「閉」にしてから動かないように車止めをし、強度の十分あるロープでトラックに本機を確実に固定してください。

【守らないと】

トラックから本機が転落したりして、事故をまねくおそれがあります。



6. 格納をするとき

⚠ 危険

シートは機械が十分冷えてから

エンジンを停止しエンジン・マフラーなどの高温部が冷えてからシートをかけてください。長期格納時は、燃料タンク・気化器内の燃料を抜取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすことがあります。



⚠ 警告

長期格納時はバッテリーとキーを外す

長期間使用しないで格納する場合は、バッテリーを取外し、キーを抜取り保管してください。バッテリーを取外すときは、⊖側を先に外します。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



⚠ 注意

機械の近くに可燃物を置かない

機械を格納するときは、平坦で安定した場所に置き、エンジンを停止してください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。近くに燃えやすい物がないか、また、燃えやすい物があれば取除いてください。

【守らないと】

機械が動きだしたり、火災事故を引き起こすことがあります。



7. 安全銘板の貼付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼付け位置を示したものです。

安全銘板は常に汚れや破損がないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。


▲注意
ガソリン火気厳禁
 給油時は必ずエンジンを停止し、ガソリンは規定レベル（又は全容量の8割程度）以下にしてください。

排気ガスに注意
 排気ガス中毒の防止のため、屋内及び換気の悪い場所では運転しないでください。

オイル点検補給
 運転前に必ずエンジンオイルを点検し、エンジンオイルを水平にして、口元一杯（上限）まで補給する。

▲取扱説明書をよく読んで安全にお使いください。

▲注意

 **取扱説明書をよく読んで安全に作業してください。**


●機械を他人に貸すときは取扱方法をよく説明し使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。●始業点検・定期点検は必ず実施してください。（各、搭乗部・摩擦部には注油等をして作動確認をしてください。）●公道を走行しないでください。小型特殊自動車の認定を受けておりません。●急な発進・停止・旋回や速度の出しすぎ禁止。●機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止め、ブレーキを掛けてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は必ず止めをしてください。●格納時は、エンジン、排気管が完全に冷えてから、燃えやすいものが近くに無い場所に格納してください。

▲危険

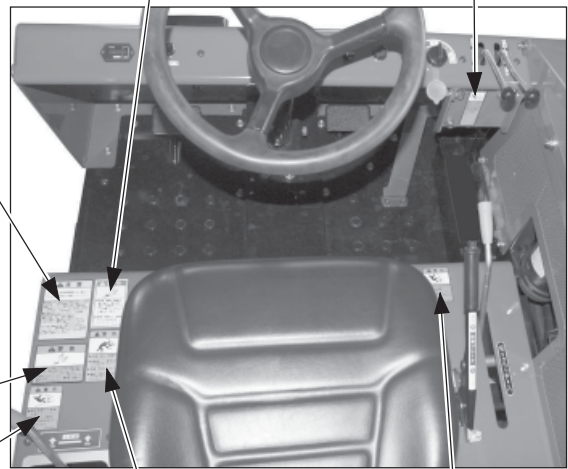


●坂道、路肩、障害物乗り越え、溝のある場所、軟弱地などでは十分注意して、スピードを落とすして走行してください。●転落・転倒などの事故によりケガをするおそれがあります。 IN3044-93100

▲警告



●エンジン始動時はかならず走行クラッチを切ってください。●本機が急発進しケガをするおそれがあります。



▲警告



●本機前進時の積降ろしは平坦で堅固な場所に、強度・長さ・幅の余裕のあるアユミ板を使用し低速で行ってください。アユミ板上での方向転換はしないでください。本機はトラックに衝突に留意してください。●転落・転倒などの事故によりケガをするおそれがあります。

▲警告



●急な坂道では変速しないでください。
 ●暴走などの事故によりケガをするおそれがあります。

IN1313-93180

▲警告



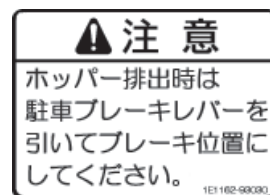
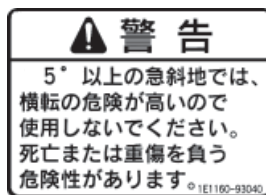
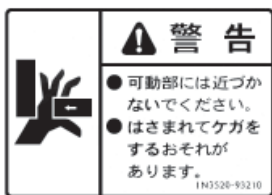
●作業に適した服装をしてください。
 ●回転部などに巻き込まれケガをするおそれがあります。
 ●本機の改造はしないでください。
 ●機能と性能がそこなわれケガをするおそれがあります。 IN3544-93200

▲警告



●駐車ブレーキレバーをブレーキ位置のまま走行しないでください。
 ●ブレーキがきかなくなりケガをするおそれがあります。 IN1313-93170

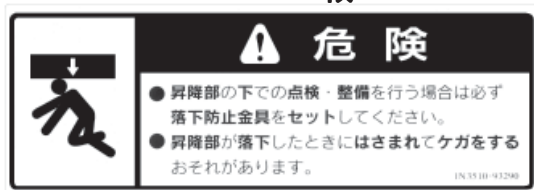
1章 安全に作業をするために必ずお守りください



2枚



2枚



9・ 1 3は反対側にも貼り付けてあります。

	部品番号	品名		部品番号	品名
1	160730-07250	注意(コーションマーク)	9	1N3520-93210	警告(可動部)
2	1N3544-93130	注意(取説スリーパー)	10	1C6700-85670	注意(カバー装着)
3	1N3544-93170	危険(坂道・路肩)	11	1E1160-93040	警告(急斜地)
4	1N1313-93160	警告(エンジン始動時)	12	1E1162-93030	注意(駐車ブレーキ)
5	1N3544-93210	警告(取説スリーパー)	13	1N3510-93290	危険(昇降部)
6	1N1313-93180	警告(坂道変速禁止)	14	1A2260-87100	警告(排ガス)
7	1N3544-93200	警告(作業服装・改造)	15	1E5120-86720	注意(マフラー)
8	1N1313-93170	警告(駐車ブレーキ)			

2章 保証とサービスについて

保証書は大切に保管してください

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになる ときは

機械の調子が悪いときに点検・処置をしても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。

連絡していただきたい内容

型式名と製造番号

エンジンの場合は型式と製造番号

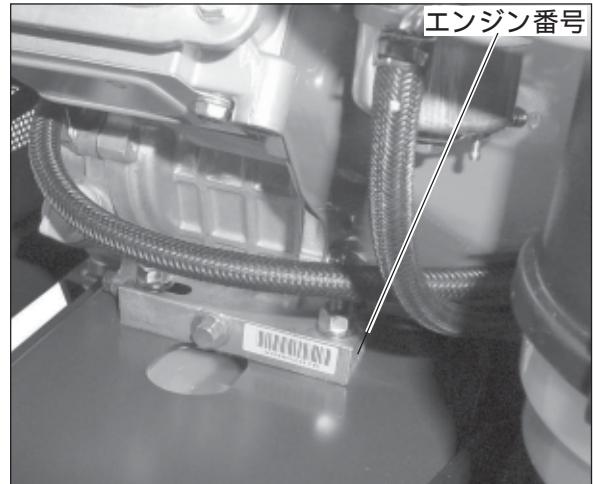
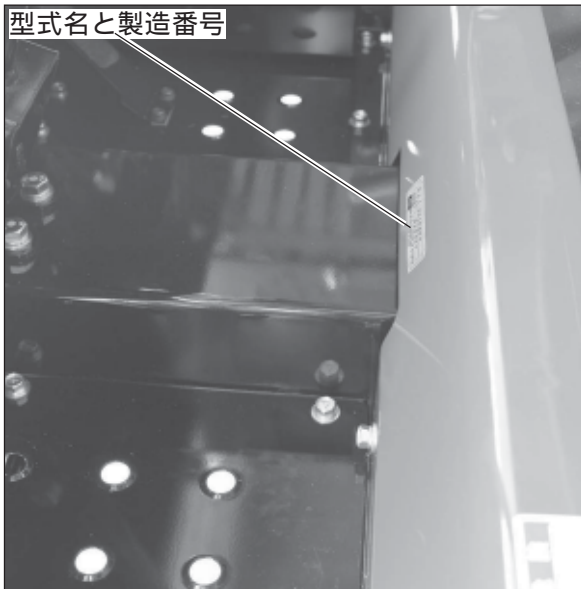
ご使用状況は？

(何速で、どんな作業をしていたときに)

どのくらい使用されましたか？

(約 時間使用后)

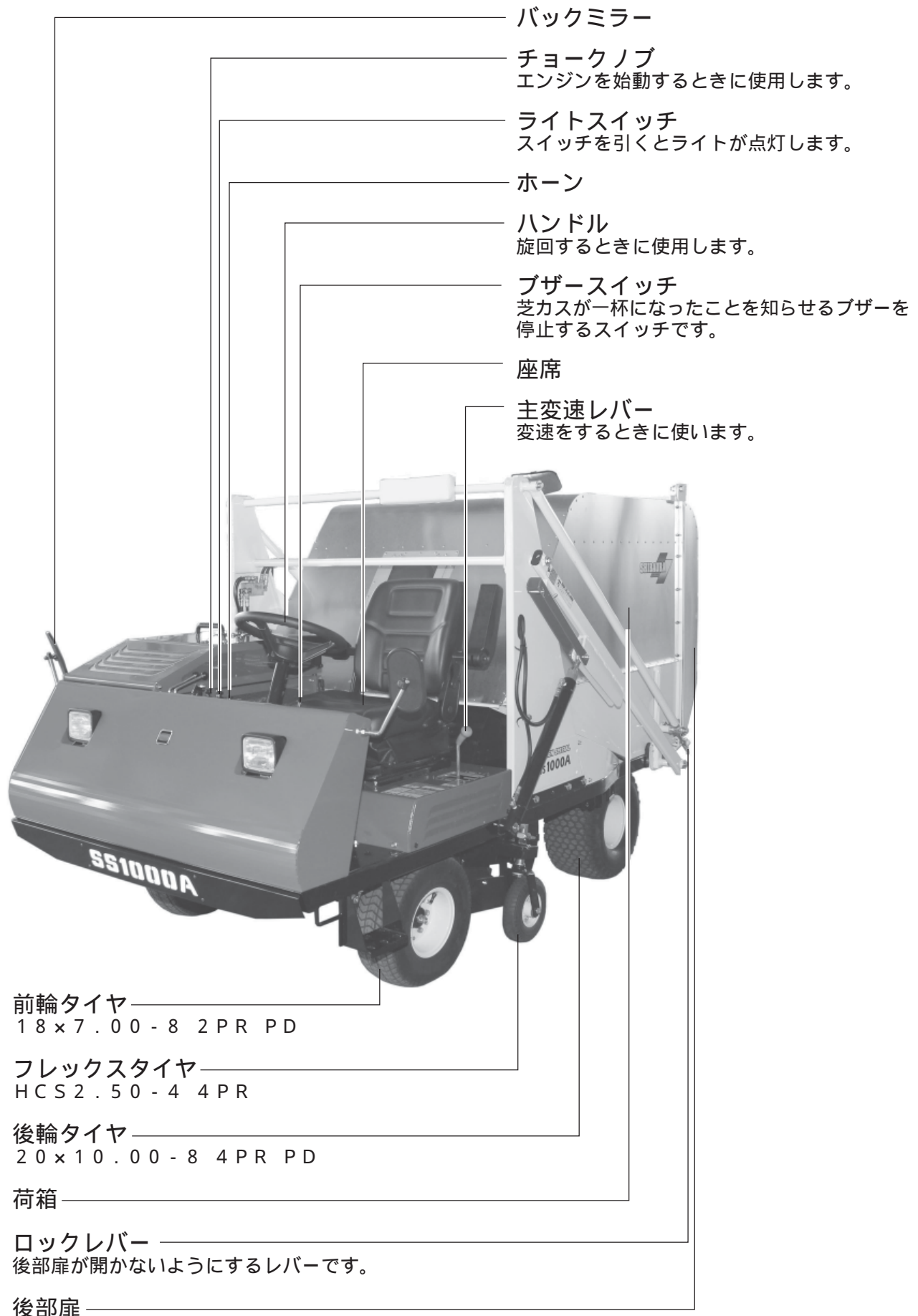
不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。



補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

3章 各部のなまえと各操作部のはたらき



バックミラー

チョークノブ
エンジンを始動するときに使用します。

ライトスイッチ
スイッチを引くとライトが点灯します。

ホーン

ハンドル
旋回するときに使用します。

ブザースイッチ
芝カスが一杯になったことを知らせるブザーを停止するスイッチです。

座席

主変速レバー
変速をするときに使います。

前輪タイヤ
18×7.00-8 2PR PD

フレックスタイヤ
HCS2.50-4 4PR

後輪タイヤ
20×10.00-8 4PR PD

荷箱

ロックレバー
後部扉が開かないようにするレバーです。

後部扉

アクセルレバー —————
エンジンの回転を上げたり、下げたりするのに
使用します。

ダンプレバー —————
荷箱の上昇・下降に使用します。

ブラシ上下レバー —————
ブラシを上下させるのに使用します。

ブラシクラッチレバー —————
エンジンからの動力により、ブラシを回すのに
使用します。

駐車ブレーキレバー —————
駐車ブレーキに使用します。

キースイッチ —————
エンジンの始動・停止に使用します。

アクセルペダル —————
エンジンの回転を上げたり、下げたりするのに
使用します。

ブレーキペダル —————
ペダルを踏むとブレーキが掛かり、放すと解除
になります。

クラッチペダル —————
エンジンからミッションまでの動力を伝えたり、
切ったりするのに使用します。ペダルを踏むと
「切」となり、放すと「入」となります。

アワメータ —————
点検・部品交換時に、この時間を
目安にします。



1. 運転前の点検

⚠ 危険

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。

燃料補給後は、燃料キャップを確実に締めこぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

燃料ホースが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。守らないと、火傷や火災をおこすおそれがあります。

⚠ 警告

点検、整備は、交通の危険がなく機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所に車止めをした上で行ってください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。

マフラー・エンジン回りのゴミは取除いてください。またマフラーに亀裂や腐食などの異常がないかも点検してください。火災事故やオーバーヒートを引きおこすことがあります。

⚠ 注意

点検、整備を行うときは、本機のエンジンを停止させてください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。また、高温部分が十分に冷えてから行ってください。高温部に触れると、火傷をするおそれがあります。

点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。守らないと機械に巻込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

感電ショック防止のため、運転中はプラグコード・点火プラグ・プラグキャップ部に触れないでください。

安全で快適な作業を行うには、本機を使用する前に必ず始業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックしてください。

点検は次の順序で行ってください。

前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば作業に支障がないか点検します。

本機のまわりを回ってみて

各部の変形・損傷・汚れ

ミッションオイルの油もれ55

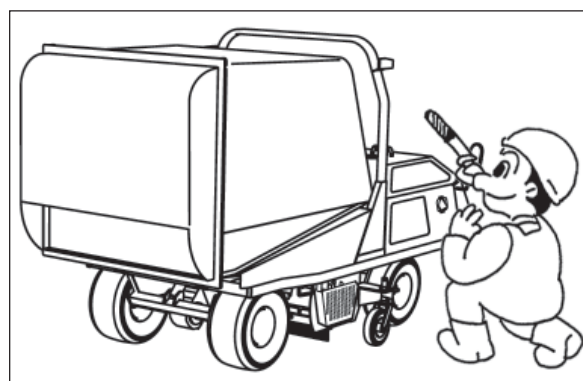
タイヤ空気圧・磨耗度合・損傷61



タイヤホイール・スイングピン・スイングパイプなどの取付けボルト・ナットのゆるみ...65

機体各部の損傷、ボルトのゆるみ

エンジンオイルの量と汚れ、油もれ ...54



燃料の量と燃料もれ、燃料ホースの損傷
.....30、57



エアクリーナの汚れ
.....56



マフラーなどの高温部分のほこりやゴミ
マフラーの亀裂や腐食などの異常
配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ
.....57

バッテリーカバーを開けてみて

バッテリー液の量
.....59



レバーを操作してみて

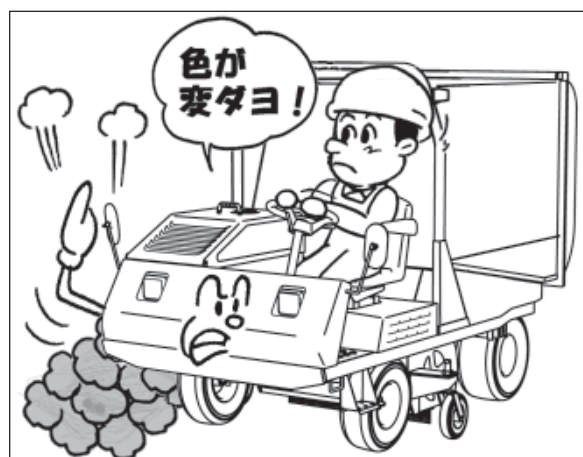
各ペダル・レバーの遊び量、作動状態
.....61 ~ 64



エンジンを始動してみて

エンジン始動後の異音

排気ガスの色



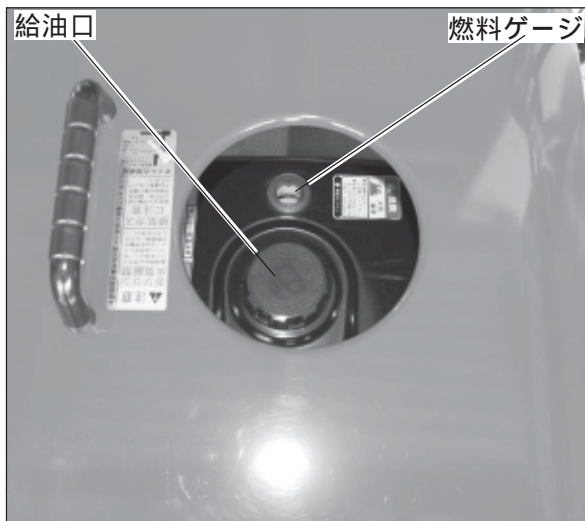
2. 燃料の点検・給油のしかた

⚠ 危険

燃料はひかえめに入れてください。機体が傾斜したときに燃料キャップから燃料があふれることがあります。万一、引火した場合、火災のおそれがあります。

点検

燃料タンク上面の燃料ゲージで燃料の残量を調べ、不足している場合は、給油口から補給してください。



給油

給油は「自動車用無鉛ガソリン」を補給してください。燃料補給後は、燃料キャップを確実に締めてください。

[重要]

ガソリンはポリタンクで保管しないでください。樹脂成分の溶解・紫外線透過により変質しやすくキャブレタ部品の穴詰まりなどのトラブルの原因となります。ガソリンを保管する場合は、ガソリン専用の鋼製燃料タンクで保管してください。

ガソリンは常に新しいものを使ってください。購入後1ヶ月以上経過したガソリンの使用は、化器部に粘着物が付着する原因となり、運転不調をおこすおそれがあります。

3. 各部の操作のしかた

座席の合わせかた

座席の位置や、背もたれの位置、座席のクッションの調節ができます。

座席の位置

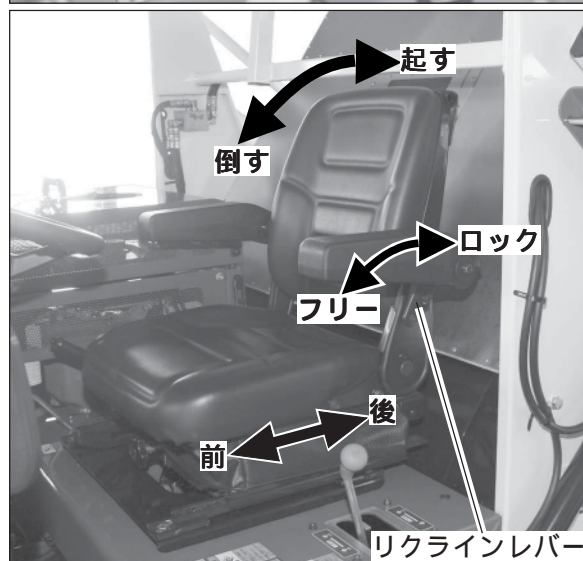
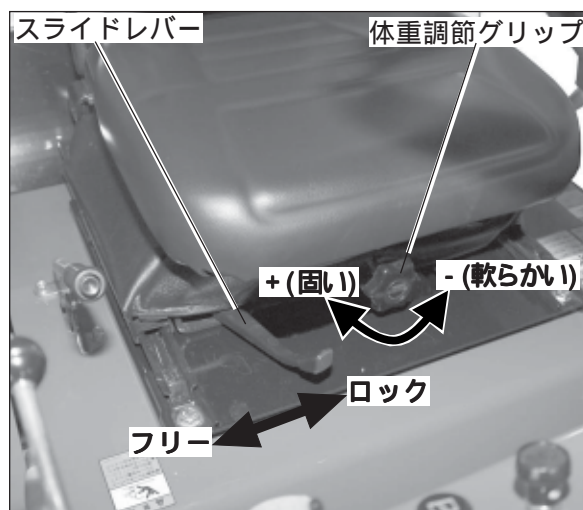
座席の右下のスライドレバーをフリー側に動かすと座席が前後にスライドします。

リクライニング

リクライニングレバーをフリー側に動かすと背もたれが倒れます。

クッション

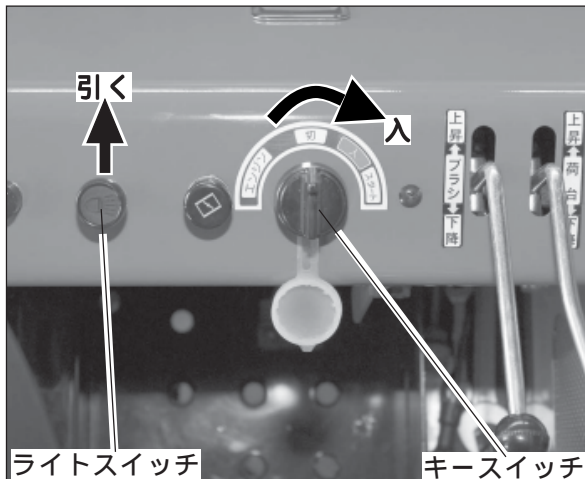
体重調節グリップを+側に回すとクッションが固くなり、-側に回すとクッションが柔らかくなります。まわしながら位置を合わせ、位置が決まったらレバーから手を放してください。



必ず、座席が固定されたことを確認してください。

ライトの点灯のしかた

キースイッチを「入」位置にしてライトスイッチを引くとライトが点灯します。

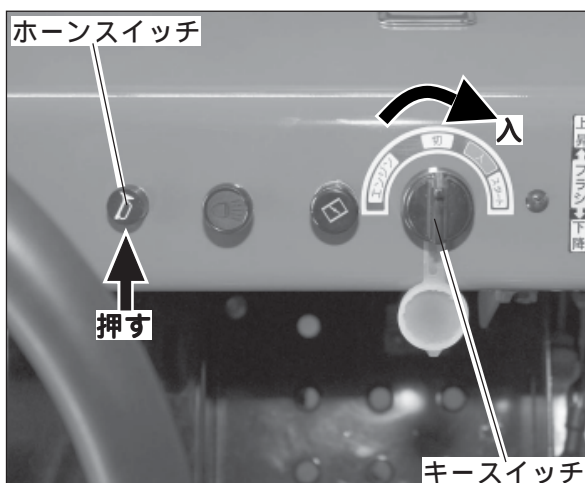


[重要]

エンジン停止中は、ライトを消してください。バッテリーが放電します。

ホーンの使いかた

キースイッチを「入」位置にして、ホーンスイッチを押すと、ホーンが鳴ります。



4 . エンジンの始動・停止のしかた

⚠ 警告

エンジン始動時は、駐車ブレーキレバーを「**駐車ブレーキ**」位置にして、周囲の安全を確認し、人や動物を近づけないでください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

閉切った室内では、エンジンの始動および暖機運転はしないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故をおこすおそれがあります。

マフラーやエアクリーナカバーを外したままエンジンを運転しないでください。守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠ 注意

機械を使う前と後には、必ず点検、整備をしてください。駐車ブレーキレバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。守らないと、傷害事故をおこしたり、機械の故障をまねくおそれがあります。

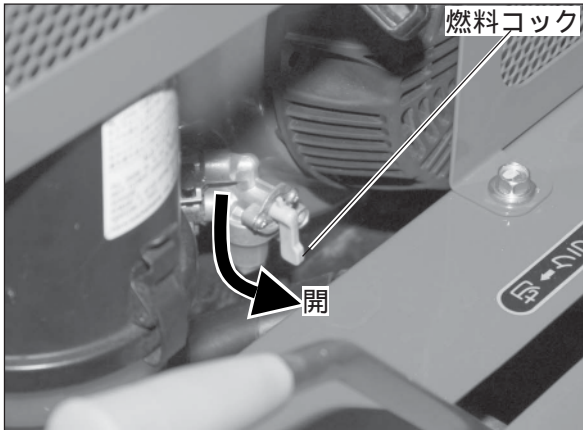
暖機運転中は、駐車ブレーキを掛けてください。守らないと、何らかの原因で本機が走りだし事故をおこすおそれがあります。

運転中、エンジン、マフラーは高温になりますので触らないでください。また、エンジンが停止しても、すぐに手を触れないでください。エンジンやマフラーなどの高温部で火傷のおそれがあります。

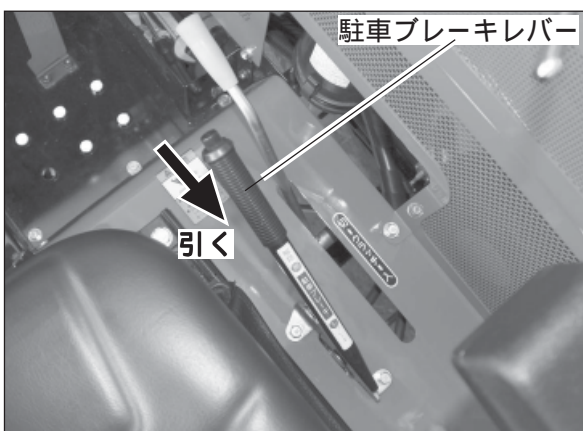
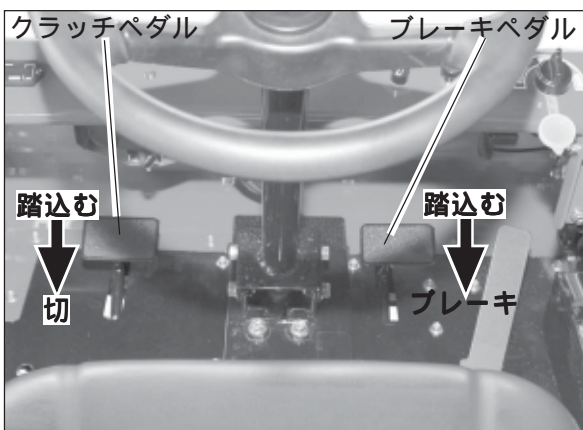
エンジン停止状態で長時間、キースイッチを「入」位置にしないでください。アワメータが作動し、バッテリーの放電の原因になります。

エンジンの始動のしかた

燃料コックを「開」にします。



クラッチペダルを踏込んでクラッチを切り、ブレーキペダルを踏込んで、駐車ブレーキレバーを引いて「駐車ブレーキ」位置にします。

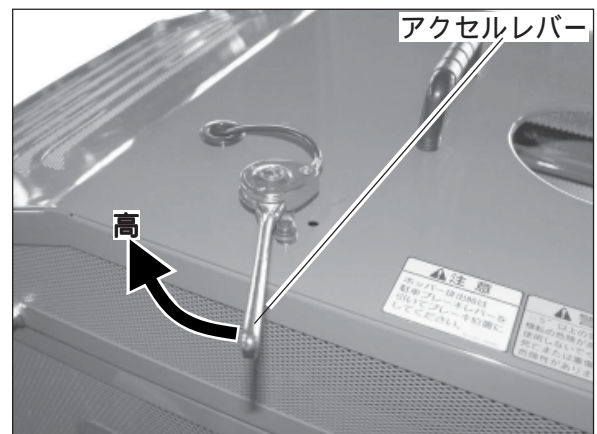


クラッチペダルは、完全に踏込んでください。始動安全スイッチが働かず、セルモータが回りません。確実に踏込んでからエンジンをスタートしてください。

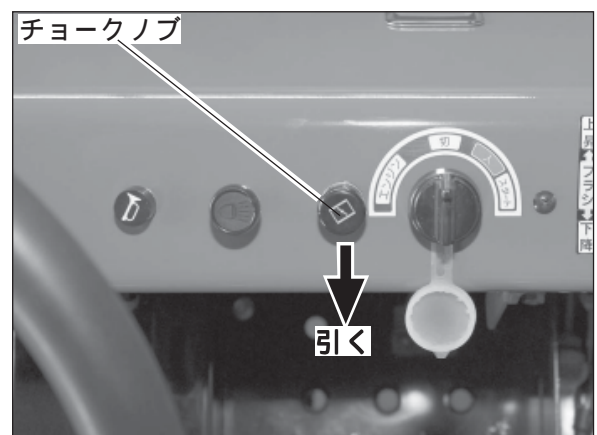
主変速レバーを「N(中立)」位置にします。



アクセルレバーを少し「高」側にします。

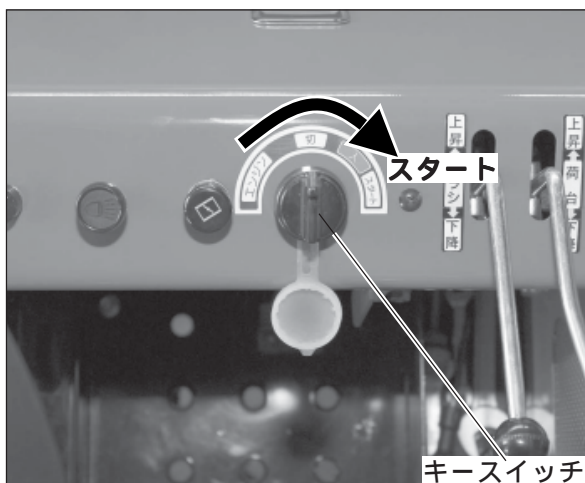


チョークノブを引きます。



エンジンが暖まっているときや、およそ外気温が15 以上のときはチョークノブを引かないでください。

キースイッチを「スタート」位置まで回します。



エンジンが始動したら、エンジン回転の調子を見ながら、チョークノブを徐々に元に戻します。最後には必ず一杯戻してください。

エンジン始動後は、約5分間は、負荷をかけずにエンジンをかけたままにしておいてください。
(エンジンの暖機運転)

[重要]

約5秒以上セルモーターを使ってもエンジンがかからない場合、いったんキースイッチを切り、1分以上バッテリーを休ませてから、再び始動させてください。

冬期など外気温が低いときは、アイドリング時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング(回転ムラ)をおこす場合があります。そのような場合は、アクセルレバーを高速側と低速側の中間位置にして、暖機運転を行ってください。

エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「スタート」位置にしないでください。

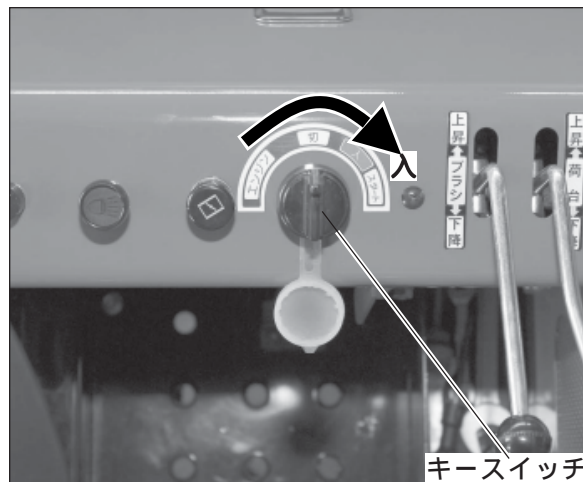
主変速レバーは「N(中立)」位置にして駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。突然発進して危険です。

リコイルによる始動のしかた

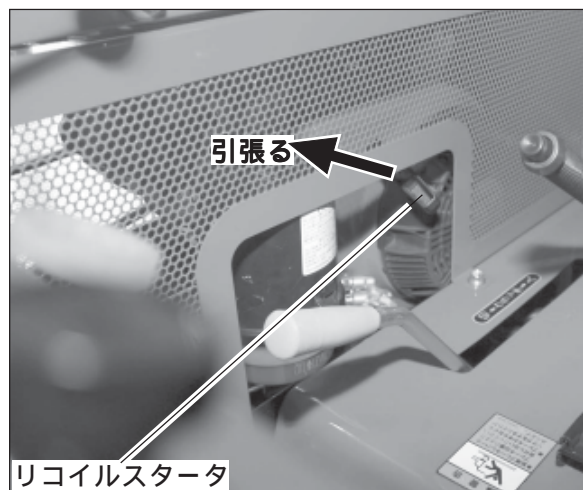
バッテリーの電圧不足でセルスタートができない場合は、次の要領で始動してください。

32ページの「エンジンの始動のしかた」の～までの操作をします。

キースイッチを「入」位置にします。



リコイルスタータを握り、圧縮位置まで軽く引きその位置から勢いよく引張ってください。

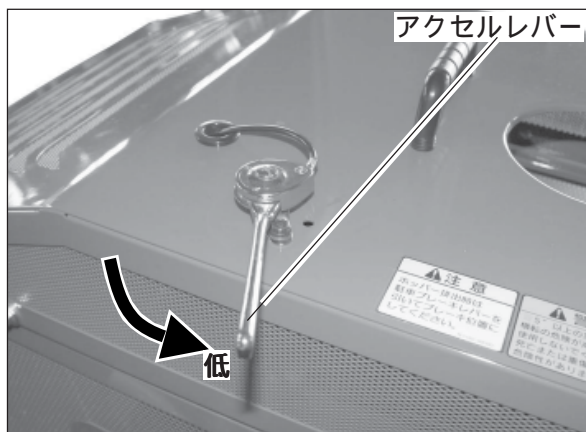


1回で始動しない場合は、～を繰り返してください。

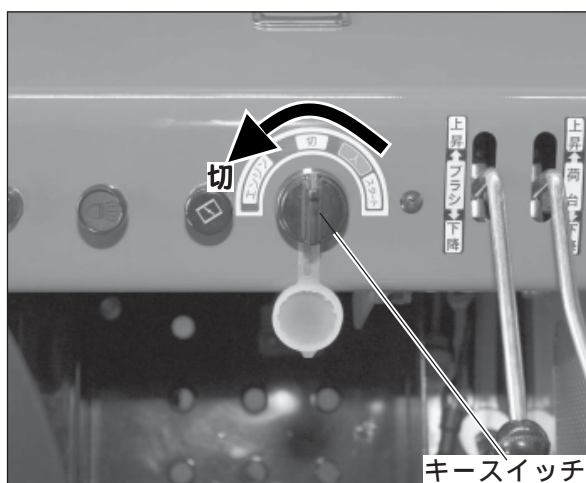
リコイルでエンジンを始動する場合、クラッチペダルを踏まなくてもエンジンが始動しますので、必ず主変速レバーを「N(中立)」位置にして駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。突然発進して危険です。

エンジンの停止のしかた

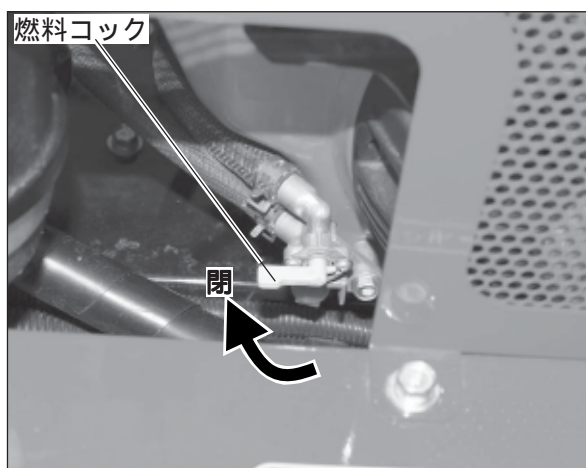
アクセルレバーを「低」位置にして、エンジンを停止します。



キースイッチを「切」位置にします。



燃料コックを「閉」にします。



5 . 発進・旋回・変速・停止のしかた

⚠ 危険

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回するときは、十分にスピードを落としてください。また坂道・路肩・凸凹道やカーブの多い場所では、十分に速度を落としてください。思わぬ事故の原因となります。

急傾斜地での斜め走行はしないでください。横転して事故をまねくおそれがあります。

後進時は、低速にし、後方に十分注意してください。転倒などにより、けがをするおそれがあります。

⚠ 警告

発進するときは、各レバーの位置と周囲の安全を確かめて発進してください。思わぬ事故、けがをまねくおそれがあります。

本機を使用しないときは、必ずキーを抜いて安全な場所に保管してください。守らないと、児童などが操作して事故をおこすおそれがあります。

走行中は駐車ブレーキレバー、またはブレーキペダルを「ブレーキ」位置に連続して入れないでください。ブレーキが磨耗して、効かなくなり、暴走して大変危険です。

⚠ 注意

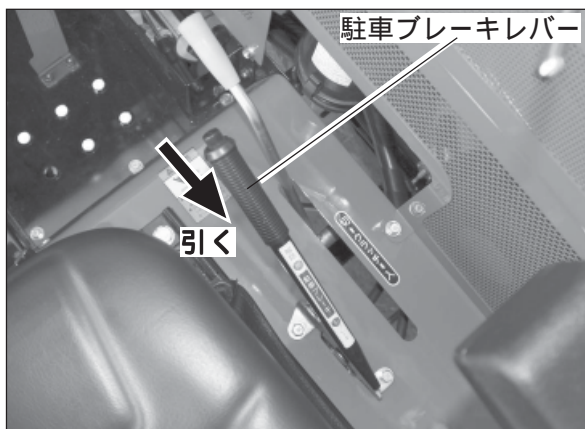
小型特殊自動車の型式認定を受けていません。法令により公道走行は禁止されていますのでしないでください。

走行中は、絶対にクラッチペダルの上に足をのせないでください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

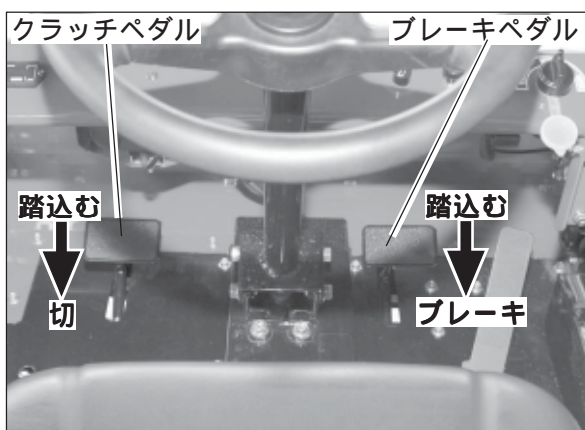
本機から離れるときは、平坦で堅固な安定した場所に置き、必ず駐車ブレーキレバーを「**駐車ブレーキ**」位置にして、エンジンを止め、車止めをしてください。守らないと本機が動きだし事故をおこすおそれがあります。

発進のしかた

駐車ブレーキレバーが「ブレーキ」位置にあることを確認してください。



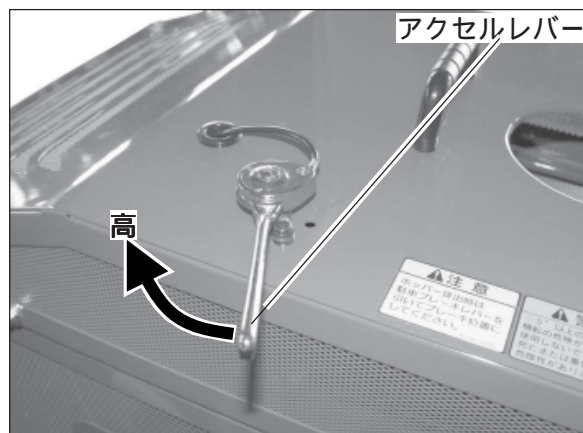
クラッチペダルを踏込んでクラッチを切り、ブレーキペダルを踏込みます。



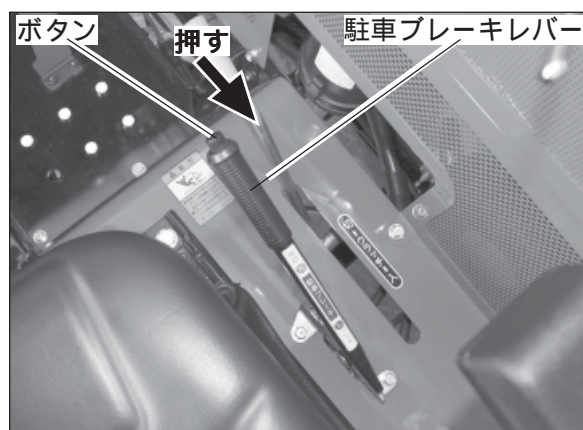
主変速レバーで希望の速度をえらびます。



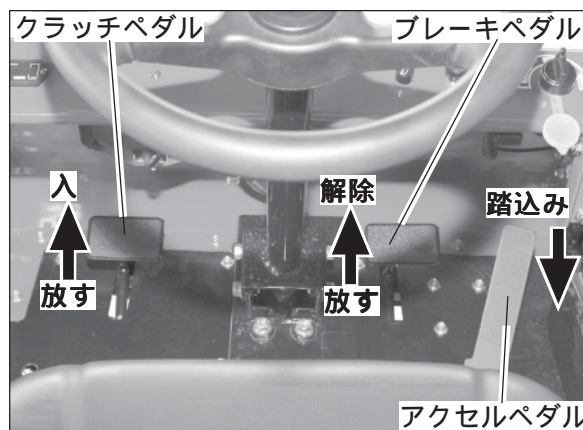
アクセルレバーでエンジンの回転を少し上げます。



ブレーキペダルを放して、アクセルペダルかアクセルレバーでエンジンの回転を少し上げながら駐車ブレーキレバーを「解除」位置にし、クラッチペダルをゆっくり放して発進します。



駐車ブレーキレバーを引いた状態で、ボタンを押して解除します。



アクセルレバーとアクセルペダルは連動しており、常にアクセルレバーが優先になります。アクセルペダルを操作する場合は、アクセルレバーを「低」位置にしてアクセルペダルを操作してください。

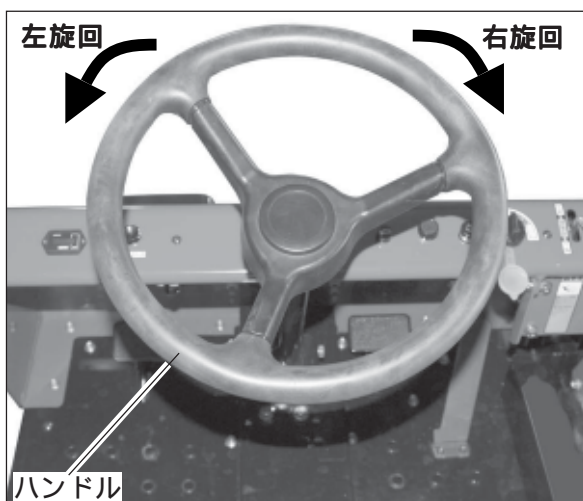
アクセルペダルは足を放すと戻りますが、アクセルレバーは手で戻さないと戻りません。

旋回のしかた

警告

旋回するときは、必ずアクセルレバーを低速側に戻してスピードをおとし、安全を確認してから、ハンドル操作をしてください。

左に旋回するときは、ハンドルを左側に操作し、右に旋回するときは、右にハンドルを操作してください。旋回後はハンドルを戻してください。



変速のしかた

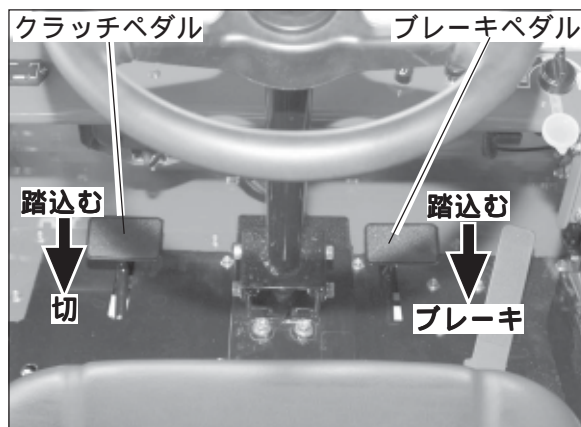
警告

主変速レバーを操作するときは、必ずクラッチペダルを踏込んでクラッチを切り、ブレーキペダルを踏込んで確実に停止してから操作をしてください。思わぬ方向に動きだし重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

急坂道やあゆみ板の上では「前進1」位置、「後進R」位置の低い速度で走行し、途中での変速はしないでください。暴走して事故をおこすおそれがあります。

変速する場合は、次の要領で行ってください。

クラッチペダルを踏込んでクラッチを切り、ブレーキペダルを踏込んでブレーキを掛けて停止します。



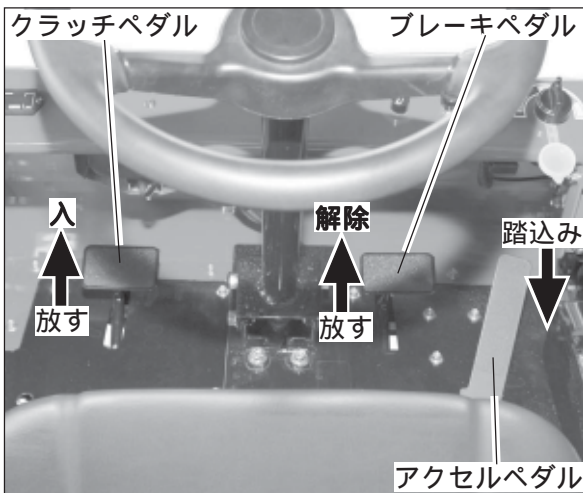
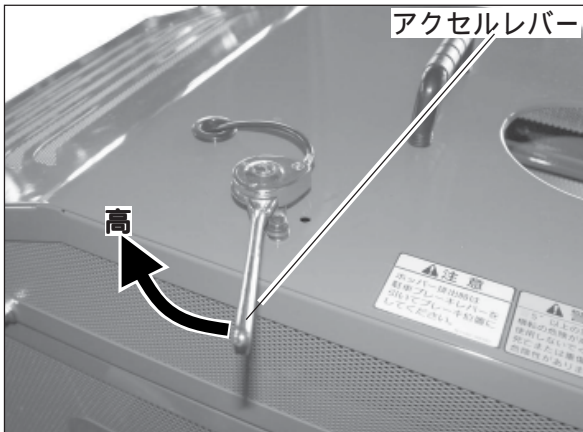
主変速レバーで希望の速度を選びます。



[重要]

走行中の変速は、機械の破損の原因になりますのでしないでください。

ブレーキペダルを放して、アクセルレバーかアクセルペダルでエンジンの回転を上げながら、クラッチペダルをゆっくり放して発進します。

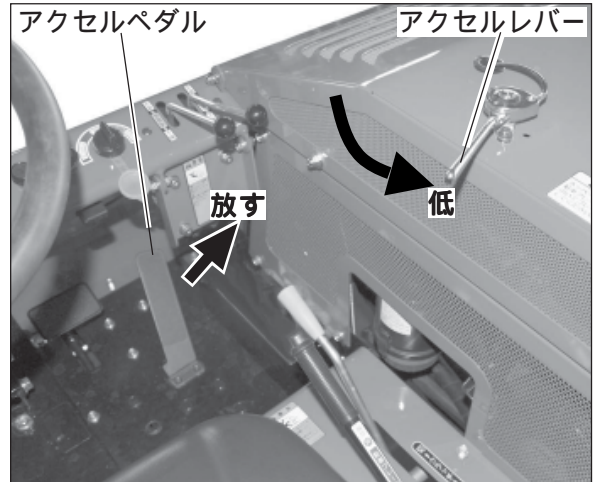


アクセルレバーとアクセルペダルは連動しており、常にアクセルレバーが優先になります。アクセルペダルを操作する場合は、アクセルレバーを「低」位置にしてアクセルペダルを操作してください。

アクセルペダルは足を放すと戻りますが、アクセルレバーは手で戻さないと戻りません。

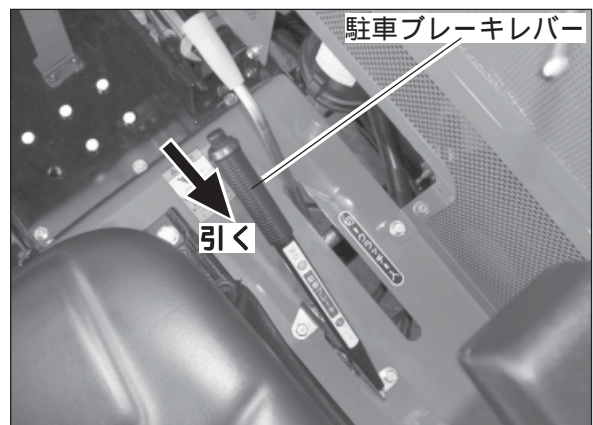
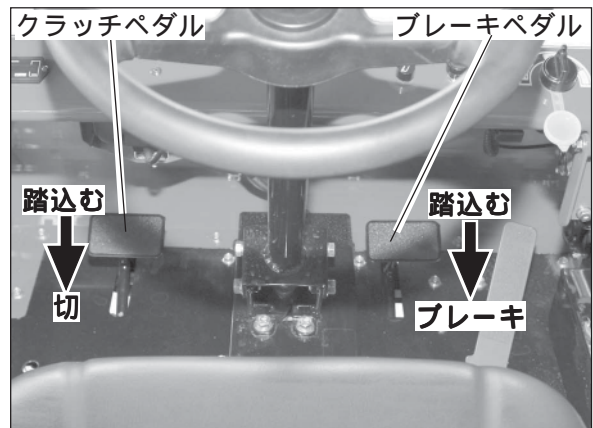
停止のしかた

アクセルレバーを低速側に戻すか、アクセルペダルを放してスピードを落とします。

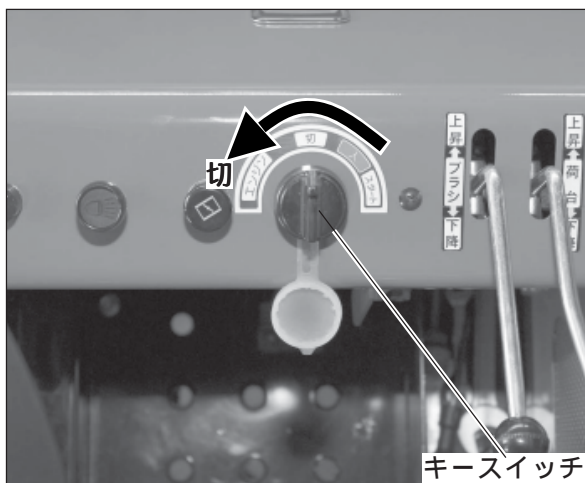


アクセルペダルは足を放すと戻りますが、アクセルレバーは手で戻さないと戻りません。

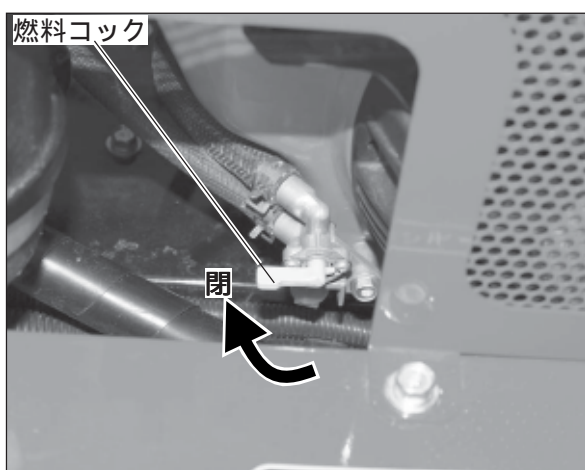
クラッチペダルを踏込んでクラッチを切り、ブレーキペダルを踏込んでブレーキを掛けて停止し、駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置にします。



キースイッチを「切」位置にします。



燃料コックを「閉」にします。



駐車のしかた

⚠ 注意

駐車するときは、平坦で堅固な場所に必ず駐車ブレーキレバーを「**駐車ブレーキ**」位置にして止めてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。

6 . 作業のしかた

⚠ 警告

最大作業能力以上は芝カスを積まないでください。機械が破損して思わぬ事故をおこすおそれがあります。

坂道では芝カスの重量を軽くして、安全に走行してください。

坂道では芝カスの排出はしないでください。本機の前後バランスが崩れたり、思わぬ傷害事故の原因になるおそれがあります。

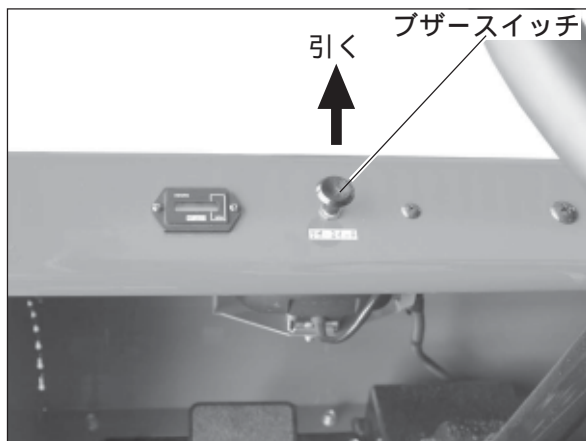
5°以上の傾斜地では使用しないでください。死亡、または重傷を負う危険性があります。

⚠ 注意

走行中は、運転席以外に人を乗せたり、荷物を載せたりしないでください。転落などにより、思わぬ傷害事故の原因になるおそれがあります。

ブザースイッチのつかいかた

ブザースイッチを引いておくと、荷箱に芝カスが満杯近くなると自動的にホッパー満杯センサーが感知してブザーが鳴ります。



ブザースイッチを押して「切」にするとブザーが止まります。

荷箱の操作のしかた

⚠ 危険

ハイダンプした荷箱の下には、入らないでください。

荷箱を上げての点検、整備は、荷箱落下防止金具をセットしてください。何らかの原因で荷箱が落下し傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠ 警告

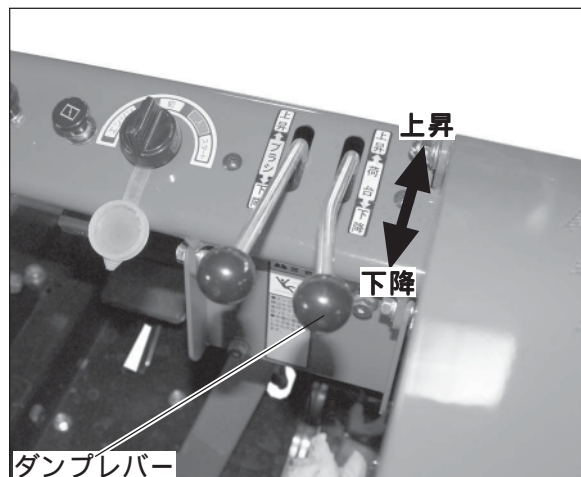
ハイダンプをするときは、駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置し、主変速レバーを「N(中立)」位置にしてください。機械が動いたり、転倒のおそれがあります。

坂道でのハイダンプを利用した芝カスの排出は絶対にしないでください。本機が浮上がり転倒・転落事故をおこすおそれがあります。

荷箱をハイダンプした状態で走行しないでください。バランスが崩れやすくなり、その上障害物の確認ができません。死亡事故や重大な傷害、物的損害をまねくおそれがあります。

荷箱のハイダンプ操作は、次の要領で行ってください。

ダンプレバーを「上昇」位置に操作し、荷箱をハイダンプさせます。



ハイダンプ



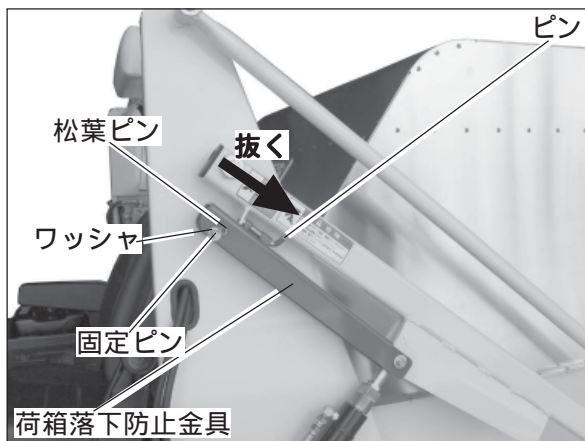
排出後は、ダンプレバーを「下降」位置に操作し、荷箱を元に戻します。

[重要]

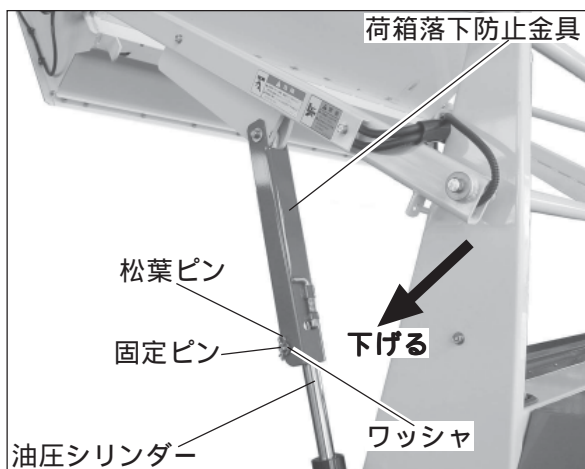
エンジン停止中に、油圧レバーを操作すると、荷台はゆっくり降下しますが、オイルタンクよりオイルが噴き出すことがありますので緊急時以外は操作しないでください。

荷箱落下防止金具のセットしかた

荷箱をハイダンプさせ、荷箱落下防止金具の松葉ピンとワッシャ・固定ピンを取外し、荷箱落下防止金具を固定してあるピンを抜きます。



荷箱落下防止金具を下げ、シリンダーにはめ込み、松葉ピンとワッシャ・固定ピンを取付けて荷箱落下防止金具をセットします。



[重要]

荷箱を上げて点検、整備をするときは、必ず荷箱落下防止金具をセットしてください。

芝生の清掃作業のしかた

警告

傾斜地では、低速で作業をしてください。守らないと転倒のおそれがあります。

最低地上高が低いため、凸凹に注意して作業をしてください。

ブラシラッチレバーを「切」位置にしても、しばらくはブラシは回転しています。手を触れたりしないでください。また、物の飛散により重大な傷害事故をおこすおそれがあります。余裕を持ってブラシラッチレバーを「切」位置にしてください。

後進での走行は、特に後方確認ができませんので、誘導者をつけてください。

下り坂では、エンジン回転を落としてエンジンブレーキを利用し、低速で走行してください。

傾斜地で積込み移動時、ブラシ上下レバーを操作し、油圧ポンプがリリーフするまで「上昇」方向にブラシ上下レバーを操作してください。

清掃作業中は、リリーフ音がするまでブラシ上下レバーを「下降」方向に操作してください。

ブザーが鳴ると荷箱がほぼ満杯です。

傾斜地で、ハイダンプすると後部扉が閉まらない場合がありますので平坦地で操作してください。

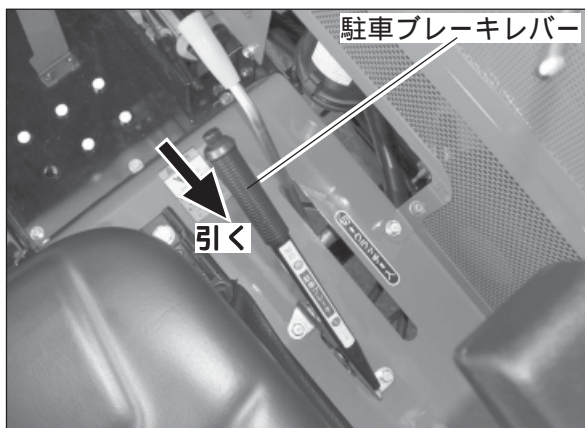
荷箱の網は定期的に掃除をしてください。

清掃作業中は、周囲に石や物が飛ぶことがありますので、人や動物が居ない、壊れる物がない場所で使用してください。

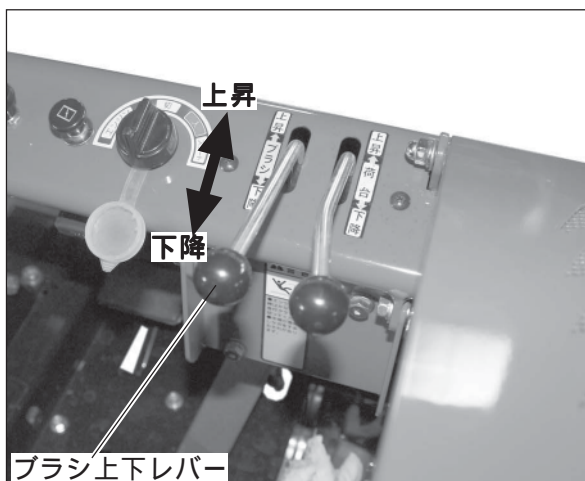
清掃作業に入る前に作業区域を確認をし、付近に傾斜地や崖など危険な場所がある場合は作業前に境界表示を行い安全区域内で作業をし、暴走・転落に十分注意してください。

清掃作業の操作は、次の要領で行ってください。

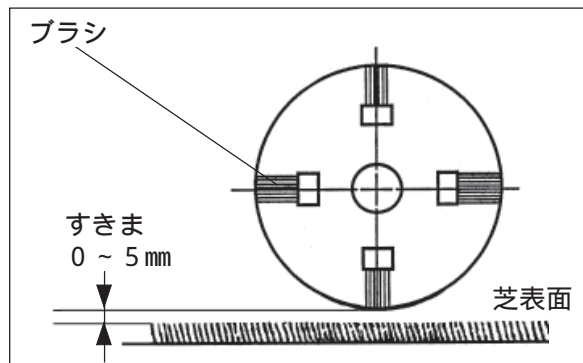
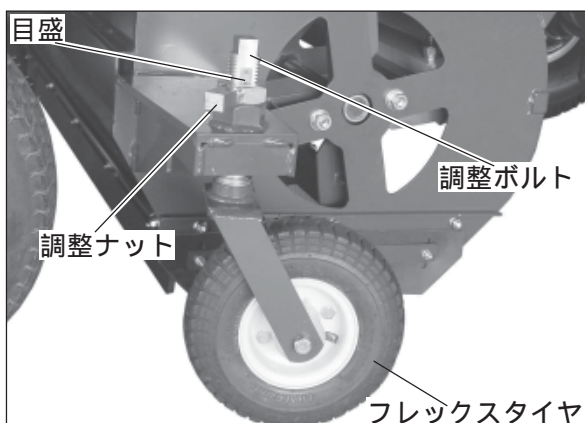
本機を平坦な場所に停止させ、駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置にします。



ブラシ上下レバーを「下降」方向へ操作し、油圧ポンプのリリーフ音がするまでブラシを下げてエンジンを停止させます。

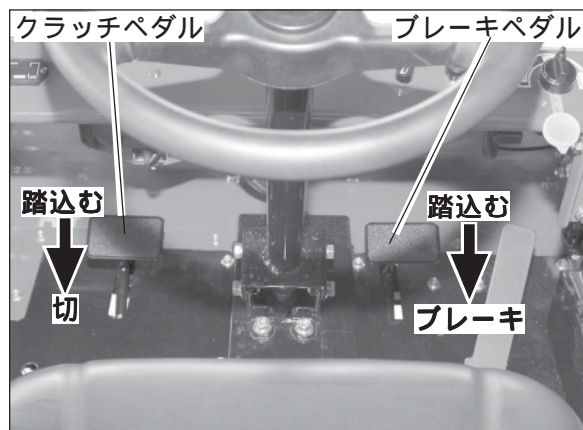


ブラシと芝生のすきまが0～5mmになるように左右のフレックスタイヤの調整ナットを付属のスパナで調整ボルトの目盛を目安にセットしてください。



ブラシの高さは、左右同じにしてください。

エンジンを始動して、クラッチペダルを踏込んでクラッチを切り、ブレーキペダルを踏込んでブレーキを掛けます。

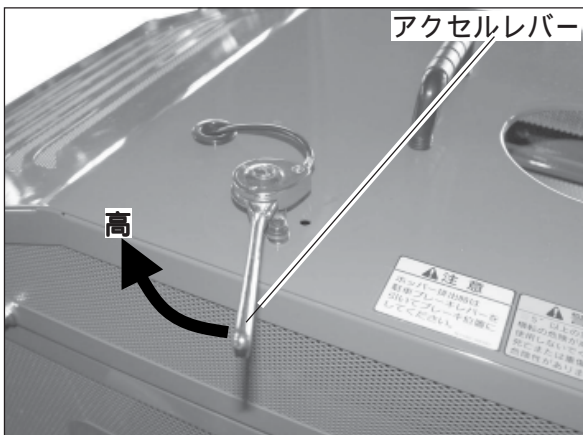


主変速レバーで希望の速度をえらびます。

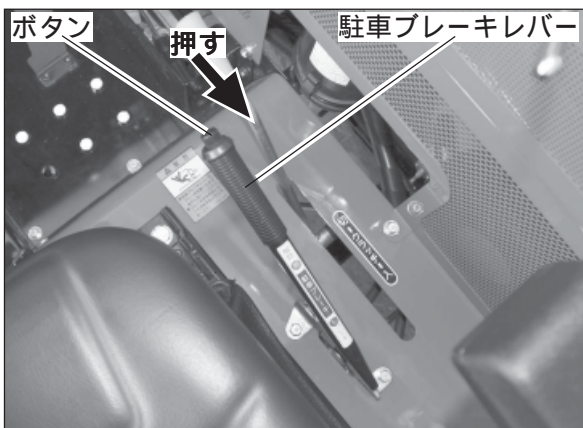
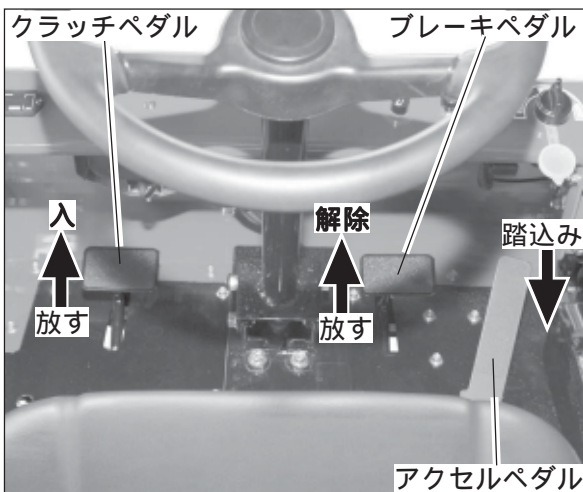


4章 運転と作業のしかた - 安全事項を必ず守って、上手に作業してください。

アクセルレバーでエンジンの回転を少し上げます。



ブレーキペダルを放して、アクセルペダルかアクセルレバーでエンジンの回転を少し上げながら駐車ブレーキレバーを「解除」位置にし、クラッチペダルをゆっくり放して発進します。

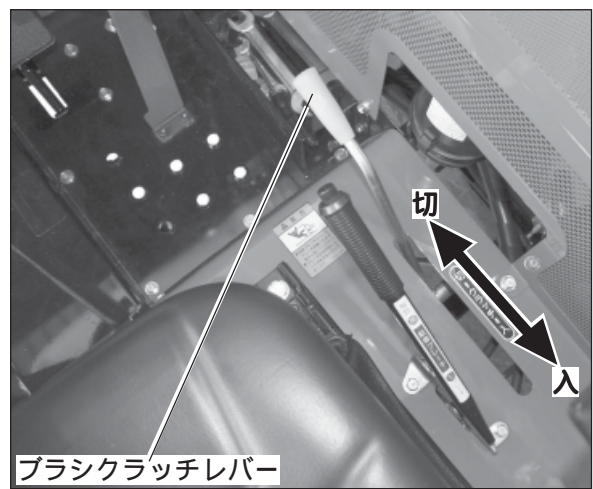


駐車ブレーキレバーを引いた状態で、ボタンを押して解除します。

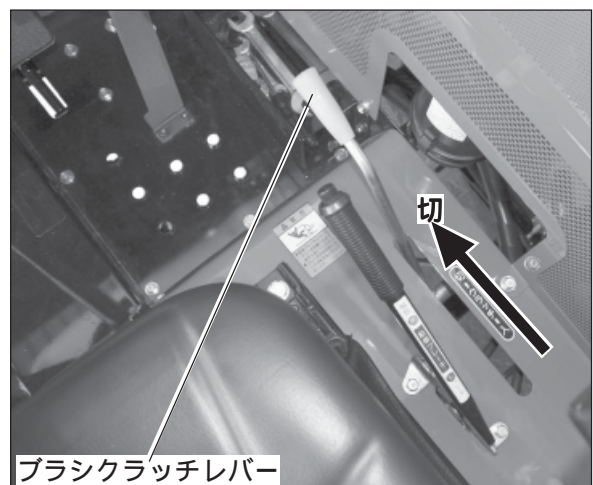
アクセルレバーとアクセルペダルは連動しており、常にアクセルレバーが優先になります。アクセルペダルを操作する場合は、アクセルレバーを「低」位置にしてアクセルペダルを操作してください。

アクセルペダルは足を放すと戻りますが、アクセルレバーは手で戻さないで戻りません。

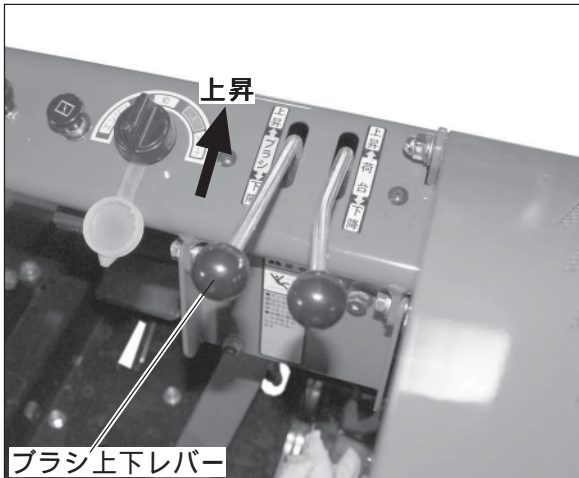
ブラシクラッチレバーを、走行しながら「入」位置にして、清掃作業を行います。



清掃作業が終了したら、ブラシクラッチレバーを「切」位置にします。



ブラシ上下レバーを一番上にします。



[重要]

ブラシの磨耗に応じて、フレックスタイヤで調整してください。

ブラシを交換する場合は、一度に全部のブラシを交換してください。

清掃作業以外は、ブラシ上下レバーを一番上にしてください。特に移動時はブラシを上げて走行してください。

芝生の上での旋回は、芝生を傷めないように大回りをしてください。

作業を行ったその日の内にブラシと荷箱の中の網を洗浄してください。

標準以外のブラシは使用しないでください。

7. 坂道での運転のしかた

警告

5°以上の傾斜地では本機を使用しないでください。転倒のおそれがあります。

あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道を走行中は、主変速レバーを操作しないでください。

坂道では主変速レバーを「N(中立)」位置にしないでください。

坂道では駐車をしないでください。守らないと本機が坂をすべり落ちて、事故をおこすおそれがあります。

坂道では、スピードに十分注意して、ゆっくりと走行し、急な下り坂ではエンジブレーキを活用してください。

坂の途中では、クラッチペダルを踏込まないでください。本機がすべり落ちて大変危険です。

上り坂で発進する場合は、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落としてゆっくり発進してください。急発進すると、前輪がはね上がり大変危険です。

変速は坂を登りつめてから、希望する変速位置に入れ直してください。坂の途中で停車する場合は、駐車ブレーキを掛けてください。

8 . 作業場への出入りの しかた

警告

作業場への出入りや段差を乗り越えるときは、十分強度のあるあゆみ板を使用し、荷箱は空にして、重心を低くしてください。

急な傾斜を登ったり、降りたりする場合は低い速度で行ってください。

作業場への出入りは、作業場にたいして直角に出入りしてください。

9 . トラックへの積込み・ 積降しのしかた

警告

積込み、積降しの場所は、交通の安全が確保でき、平坦で安定した場所を選んでください。思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。

トラックはエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け、「車止め」をしてください。

使用するあゆみ板は、幅、長さ、強度が十分あるスリップしないものを選び、あゆみ板が外れないように、フックをトラックの荷台にしっかり掛けてください。

荷箱を下まで一杯下げて、芝カスは積まないでください。

誘導者は、機械の直前に立たないでください。機体が不意に動いたときに思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。

トラックへの積込み、積降しは、あゆみ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えるためのハンドル操作は絶対にしないでください。守らないと転落などの事故をおこすおそれがあります。

積込みは「後進R」、積降しは「前進1」でゆっくりと行ってください。守らないと転倒・転落による事故やけがをまねくおそれがあります。

本機があゆみ板とトラックなどの継目を越えるときには、急に重心が変わりますので、十分に注意してください。転倒・転落による事故やけがをまねくおそれがあります。

トラックなどに積んで移動するときは、十分強度のあるロープを使用し、確実に固定してください。さらに「車止め」をしてください。守らないと、機械の転落や、運転席への突込みによる重大な事故やけがをまねくおそれがあります。

周囲に危険物のない、平坦な場所を選びます。

基準に合ったあゆみ板を用意します。

《あゆみ板の基準》

あゆみ板は、基準にあった十分強度のあるものをご使用ください。

長さ...トラックの荷台高さの4倍以上。

幅.....本機のタイヤ幅の1.5倍以上。

強度...本機の総重量に十分耐えられるもの。

(1本当たり)

表面...すべり止めのあるもの。

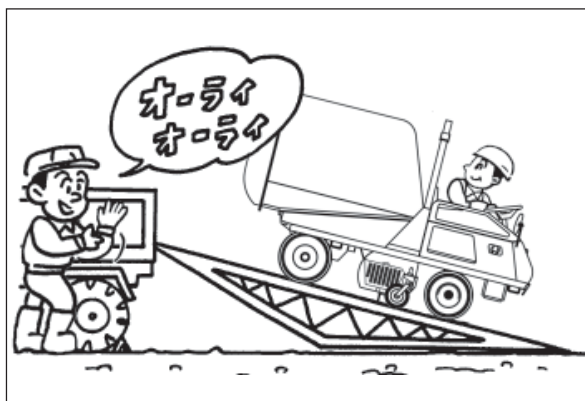
形状...固定フックのあるもの。

あゆみ板のフックを、トラック荷台と段差のないように確実に掛けてください。

左右のタイヤがあゆみ板の中央に位置するように、本機をセットしてから積込み、積降しを行ってください。

積込みの場合は「**後進R**」で、積降しの場合は「**前進1**」の低い速度で行ってください。

積込み中、途中でエンジンがストップした場合は、いったん下まで降りてエンジンを再スタートしてください。



危険

燃料を抜くときは、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。エンジンを止め、エンジン、マフラーなどの高温部が冷えてから必ず燃料受けを用意し、燃料をこぼさないようにしてください。燃料などに引火し火災のおそれがあります。

シートを掛ける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラーが十分冷えたことを確認してから掛けてください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

警告

お手入れは、平坦な安定した場所で行ってください。守らないと機械が転倒して、思わぬけがをするおそれがあります。

格納時は平坦で安定した場所に置いてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は必ず「**車止め**」をしてください。本機が自然に動いて事故になります。

注意

お手入れは、エンジンを停止させて行ってください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部分が十分に冷えてから行ってください。高温部に触れると、火傷をするおそれがあります。

近くに燃えやすいものがあれば取除いてください。火災の原因になります。

1 . 作業後の手入れ

その日の内に水洗いをし、水洗い後はよく水分をふき取って、各回転・摺動部に油をたっぷり差してください。

警告

エンジン・マフラーなどの芝カス、草などは必ず取除いてください。そのまま運転しますと、火災の原因になることがあります。またマフラーに亀裂や腐食などの異常がないかも点検してください。

[重要]

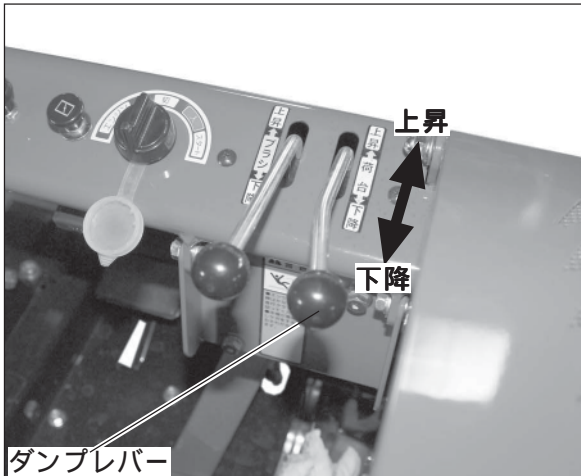
水洗いをするときは、エアクリーナの吸気口に水が入らないようにしてください。

電装品には水を掛けないようにしてください。故障の原因となります。

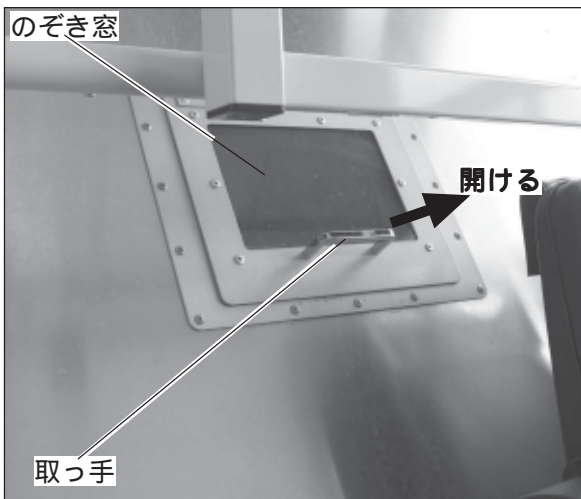
網の掃除のしかた

荷箱の網の掃除は、次の要領で行ってください。

エンジンをスタートさせ、ダンプレバーを「上昇」位置に操作し、荷箱を少しダンプ（扉が開く程度）させてエンジンを停止させます。



荷箱ののぞき窓を開けて、中の網をエアーマタまたは、ホースで水を流して掃除をしてください。



掃除がすんだら、網をよく乾燥させてください。

掃除が終わりましたら、エンジンを始動し、ダンプレバーを「下降」位置に操作し、荷箱を降ろします。

2. 長期間使用しない場合の手入れ

警告

格納する場合は、バッテリーを取外し、キーを抜き取り保管してください。守らないと事故をおこすおそれがあります。

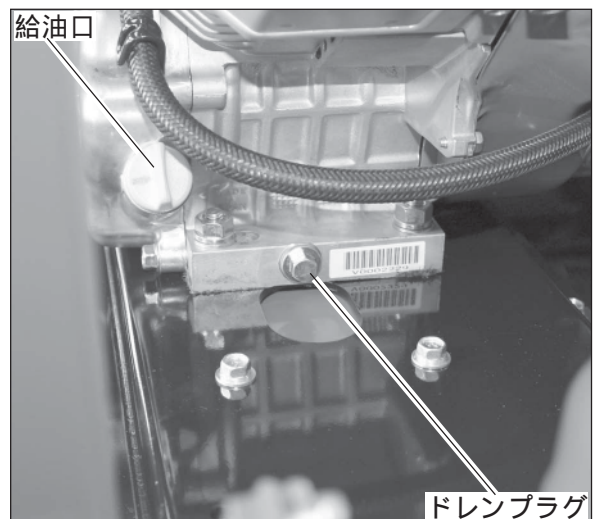
[重要]

オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておく、環境汚染につながります。廃油の処分は、販売店に相談してください。

エンジンを低速で運転（約5分間）停止します。

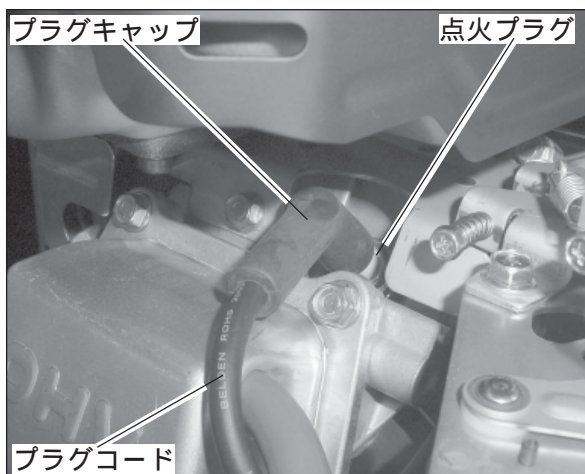
エンジンが温かいうちにエンジンオイルを抜出して、新油と交換してください。（P 54 3. 各部オイルの点検・交換のしかた」参照）

交換時期の目安はP 51を参照してください。

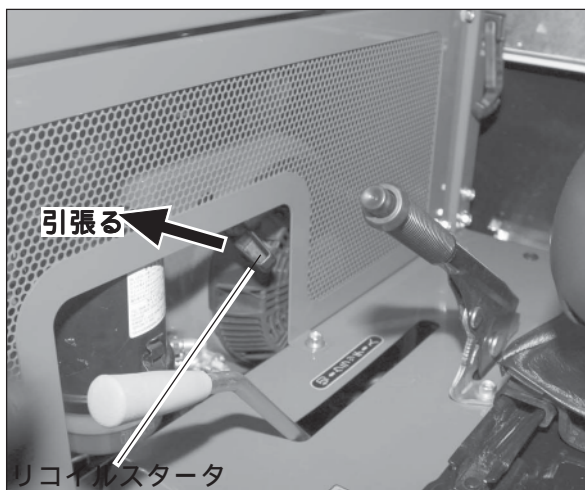


エンジンが熱い間は、作業をしないでください。

点火プラグを外し、点火プラグの穴からエンジンオイルを10cc位入れます



リコイルスタータを2～3回引きます。(エンジンを始動させてはいけません。)



再び点火プラグを取付けて、リコイルスタータを軽く引き、重くなった(圧縮の有る)ところで止めておきます。

圧縮のある位置では、吸排気弁が閉じており、湿気によるエンジン内部の発錆を防ぎます。

プラグキャップ・プラグコードは点火プラグに確実に差込んでください。

燃料タンク・キャブレタ・燃料こし器の中の燃料は抜取っておいてください。

燃料抜きの要領

燃料受け皿を用意して燃料をこぼさないようにしてください。

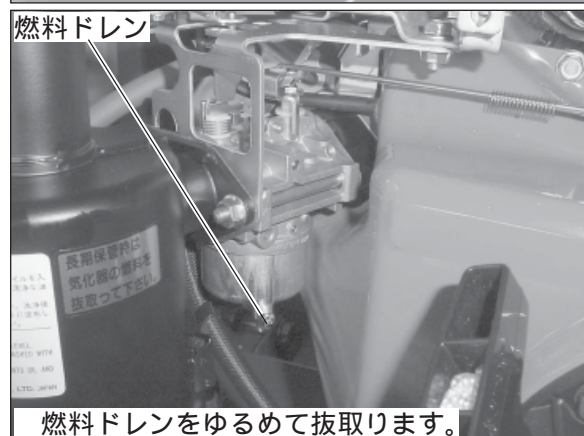
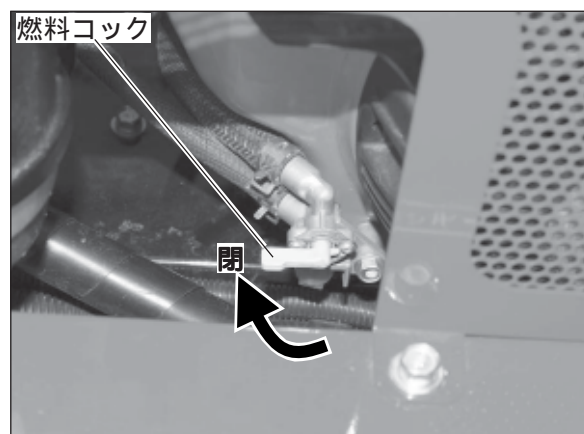
燃料コックを「閉」にします。

燃料こし器を外し、燃料こし器の燃料を抜きます。(P 57「5.燃料こし器の掃除のしかた」参照)

燃料こし器の下に燃料受けを置き、燃料コックを「開」にし、燃料タンク内の燃料を全て抜きます。

燃料コックを「閉」にし、燃料こし器を元の位置に取付けてください。

キャブレタの中の燃料は燃料ドレンをゆるめて抜取ってください。
(燃料が出てこなくなるまで、こぼさないように容器に受けてください)



[重要]

ガソリンは1ヶ月以上放置すると「気化」・「酸化」してエンジンの始動不良や運転不調をひきおこします。機械を保管する場合は、必ずこの要領で燃料こし器・キャブレタ内のガソリンを抜いてください。

エンジン以外の手入れ

乾燥した風通しの良い所で、タイヤの下に板を敷いてください。荷箱は、降ろした状態にしてください。

外部の錆びやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。

バッテリーは完全充電し、本機から取外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。

タイヤは正規の空気圧にしてください。
(P 61 参照)

[重要]

バッテリーは使わなくても自然放電します。1ヶ月に1度は充電器で完全充電してください。
(P 59 参照)

長期間格納後の使用

長期格納後の再使用は、特に次の内容に注意してください。

始業点検を確実に行ってください。

エンジンの寿命・性能を保つため、エンジン始動後はアイドル回転で5分程度、運転してください。

6章 手入れと点検・調整について

⚠ 危険

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対にしないでください。

エンジンの回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油はしないでください。

荷箱を上げて点検、整備をするときは、必ず荷箱落下防止金具をセットしてから行ってください。

⚠ 警告

点検、整備は交通の危険がなく、本機が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、タイヤに車止めをして行ってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。

⚠ 注意

1年毎に定期点検、整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料ホースは2年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。

点検、整備、修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部が十分に冷えてから行ってください。火傷をするおそれがあります。

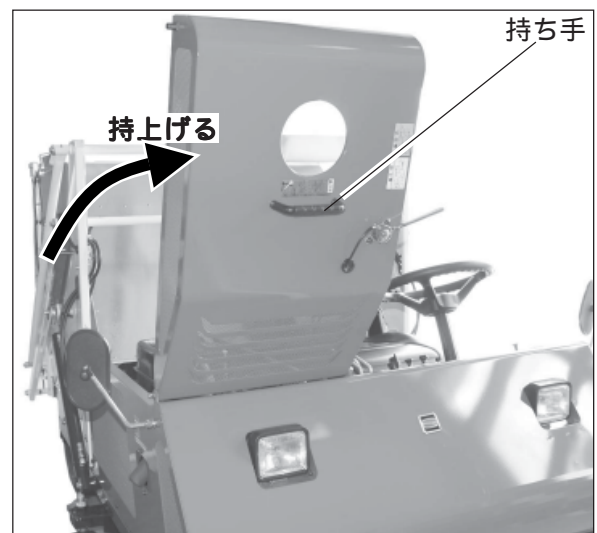
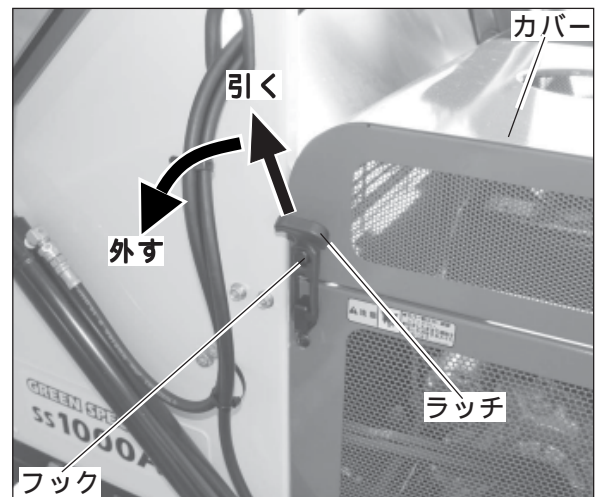
点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてから作動確認をしてください。衣類などが巻込まれて危険です。

部品の交換、および草・芝カスなどのゴミを取るときは、エンジンが十分に冷えてから行ってください。

定期点検や整備は、シーズンオフに行いますとシーズン中に機械の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故を未然に防止するために、1年毎に販売店で定期点検、整備を受け、各部の安全を確認してください。特に燃料ホースやゴムホース類は2年毎に交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常に機械を最良の状態安心して作業が行えるようにしてください。

エンジンカバーの開けかた

ラッチを少し引きながらフックから外してカバーを持上げます。



[重要]

エンジンカバーを閉じるときは、手をはさまないようにゆっくりカバーを下ろしてください。

1. 定期点検一覧表

点検・調整箇所	規定量	内容	点検・交換時期	参照ページ
エンジンオイル	1.0L	エンジンオイル SE級以上 夏期(15以上) ...SAE30 春・秋期(10~15) ...SAE20 冬期(10以下) ...SAE10W-30 交換	1回目: 25時間目 2回目以降: 50時間毎	54
走行ミッションオイル	2.5L	ギヤオイル90番 交換	1回目: 50時間目 2回目以降: 100時間毎	55
油圧オイル	4.0L	油圧作動油 ...ISO VG 46 交換	1回目: 20時間目 2回目以降: 50時間毎	55
エアクリーナ	オイルレベル	洗浄	作業前点検	56
燃料こし器		洗浄	50時間毎	57
燃料ホース		交換、結合部の点検	2年毎に交換	57
電気配線		被覆のはがれや傷を点検	毎年点検	57
点火プラグ	電極すきま 0.7mm	清掃、電極すきまの調整	50時間毎	58
バッテリー	液面レベル内 に蒸留水補給	バッテリー液が上限、 下限の間にあるか確認		59
タイヤ 空気 圧	前輪 18×7.00-8 2PR PD	100 Kpa (1.0 kgf/cm ²)	空気圧・磨耗度合・損傷	作業前に確認
	後輪タイヤ 20×10.00-8 4PR PD	200 Kpa (2.0 kgf/cm ²)		
	フレックスタイヤ HCS2.50-4 4PR	350 Kpa (3.5 kgf/cm ²)		
ブレーキペダル	0±0	遊び量		62
クラッチペダル	10~20mm			63
ステアリング各部		増締め		65
タイヤホイール取付ボルト				
エンジン取付ボルト				

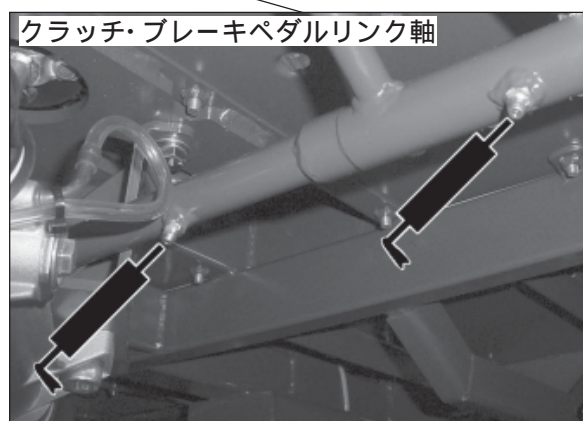
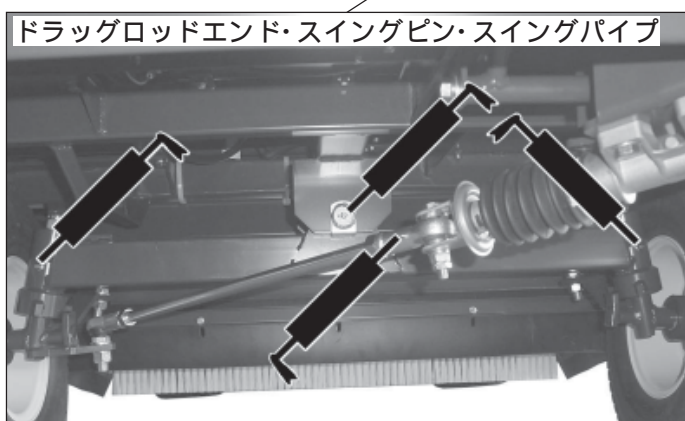
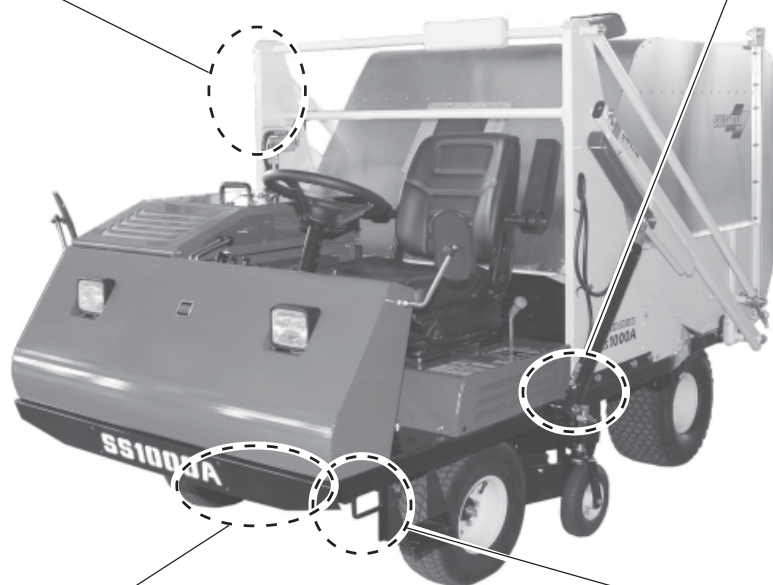
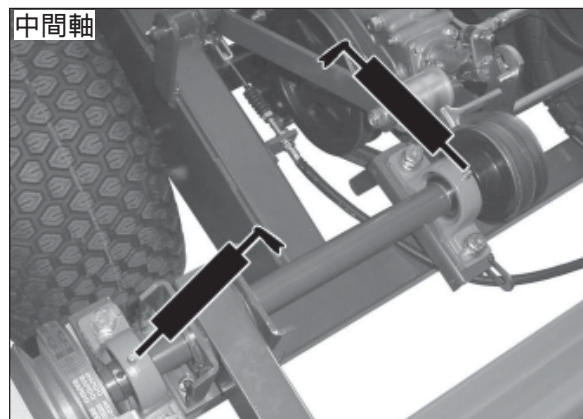
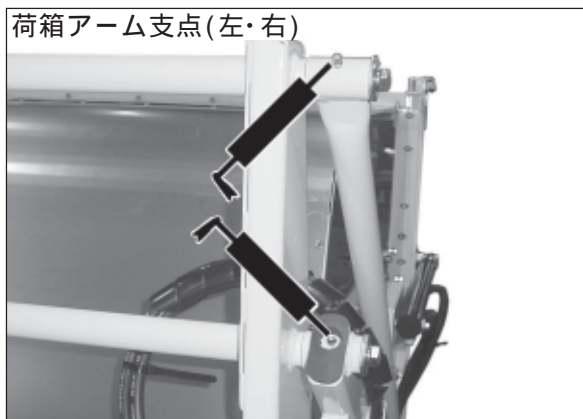
2. 各部のグリスアップのしかた

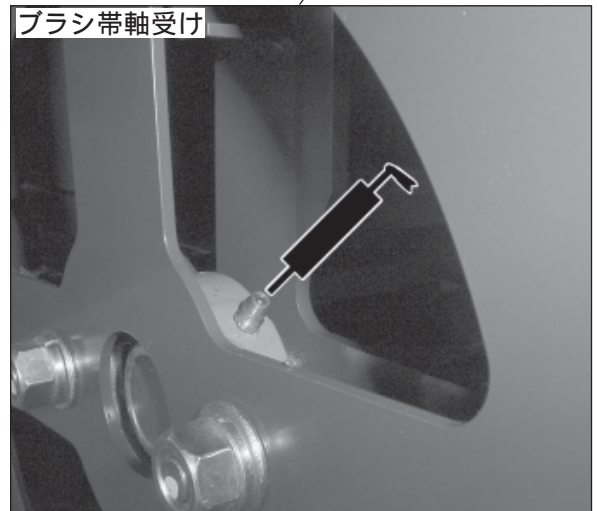
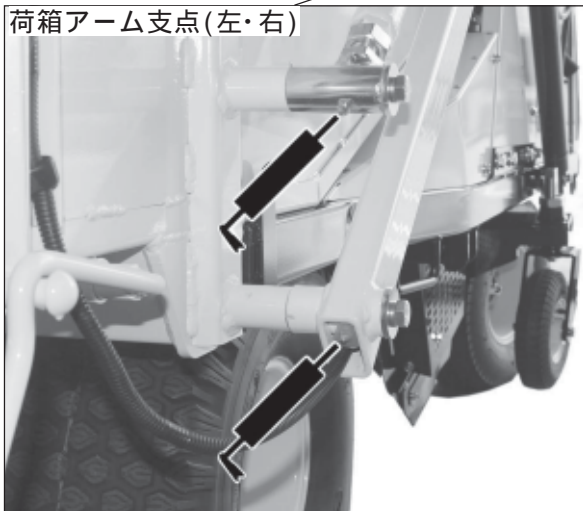
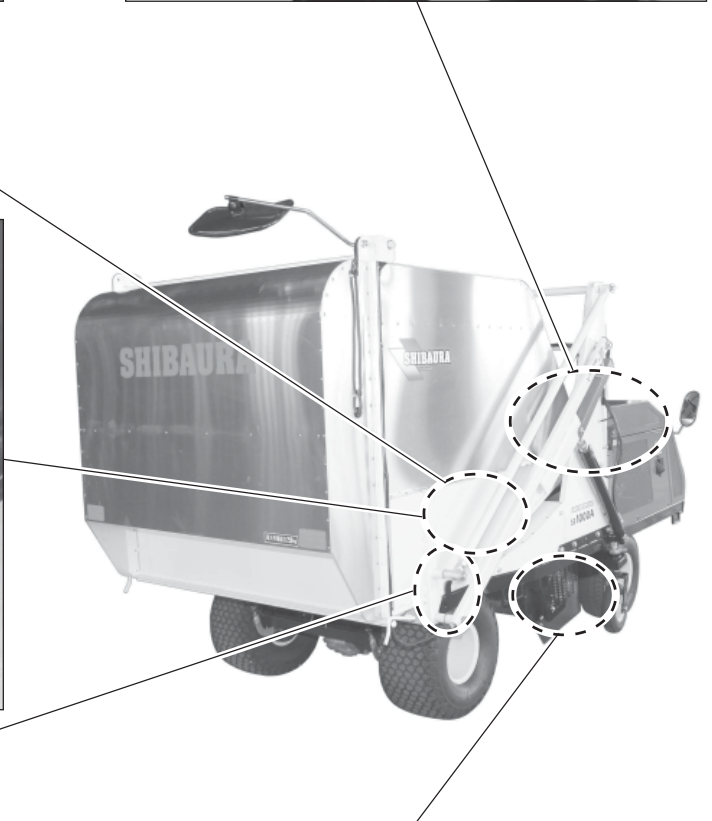
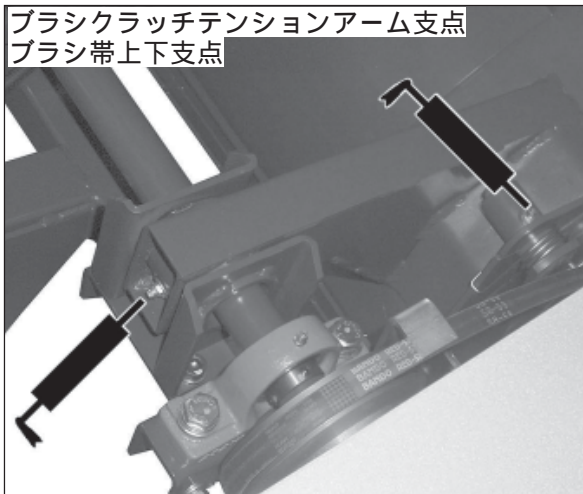
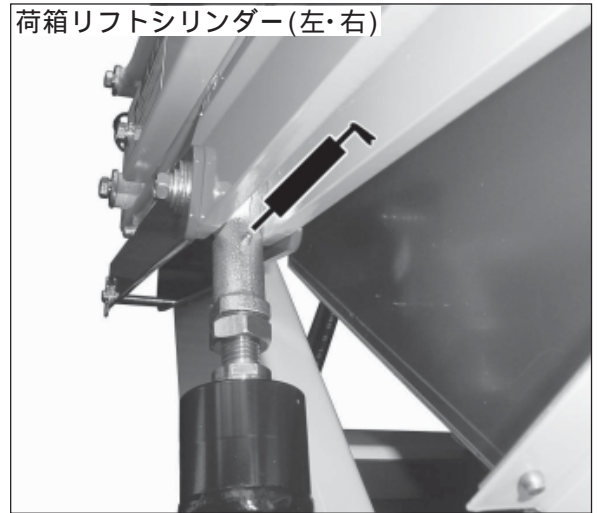
⚠ 注意

記載されている以外にも、摩擦部や摺動部には必ず注油・グリスアップをしてください。作動不良をまねいて物損・傷害をおこすおそれがあります。

定期的にグリスポンプで確実にグリスアップをしてください。

<凡例>  グリスアップ位置





3. 各部オイルの点検・交換のしかた

古くなったオイルは、機械の性能を落とすだけでなく、故障の原因にもなります。定期的に古いオイルを抜取り、新しいオイルを規定量給油してください。

[重要]

オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておく、環境汚染につながります。廃油の処分は、販売店に相談してください。

エンジンオイル

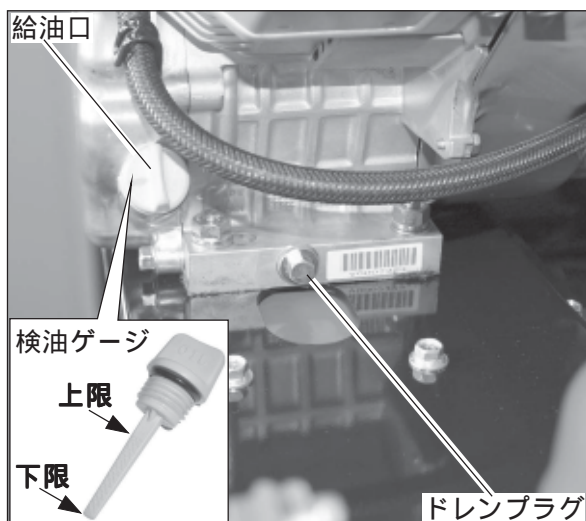
点検・補給

機械を水平な場所に置きます。

検油ゲージを外して、検油ゲージに付着したオイルをきれいにふきます。

検油ゲージをねじ込まないように差込み、再び抜いて検油ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。

不足している場合は、給油口より検油ゲージの規定量まで補給してください。



運転前に必ずエンジンオイルの点検を行ってください。

交換

ドレンプラグを外し、給油口の蓋をエンジンオイルが噴き出さないように、少しずつ加減をしながらゆるめ、汚れたオイルを流し出し、こぼさないように容器に受けてください。給油は、給油口より検油ゲージの規定量(1.0L)まで入れてください。

エンジンが温かいうちに抜くと容易に抜くことができます。

[重要]

オイルの量はエンジンを停止して調べてください。

給油するときは、本機を必ず水平にして行ってください。

エンジンが熱いうちは行わないでください。

熱いオイルが体にかかると火傷をするおそれがあります。

エンジンオイルを抜くときに、給油口の蓋を外すとエンジンオイルが噴き出し衣服などを汚すおそれがあります。

給油をするオイルは、必ず、規定のオイルを使用してください。

オイルの点検・交換作業後はドレンプラグや給油口の蓋を確実に締付けてください。

使用初期は、内部部品の初期摩耗のためオイルが早く汚れるので、早めにエンジンオイルを交換してください。2回目以降は、50時間毎に交換してください。ホコリの多い場所で使用される場合は、交換時期を早めてください。

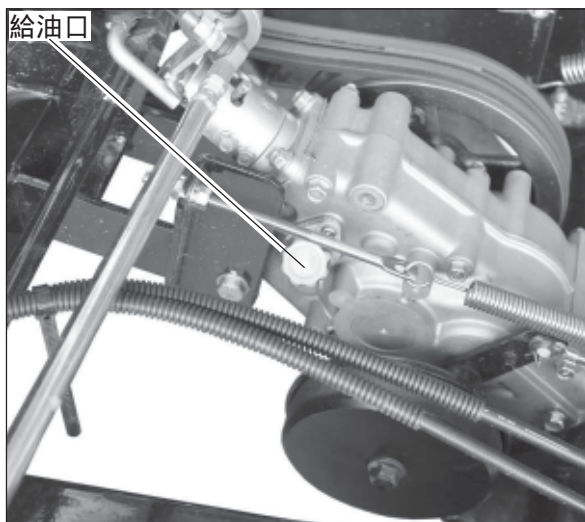
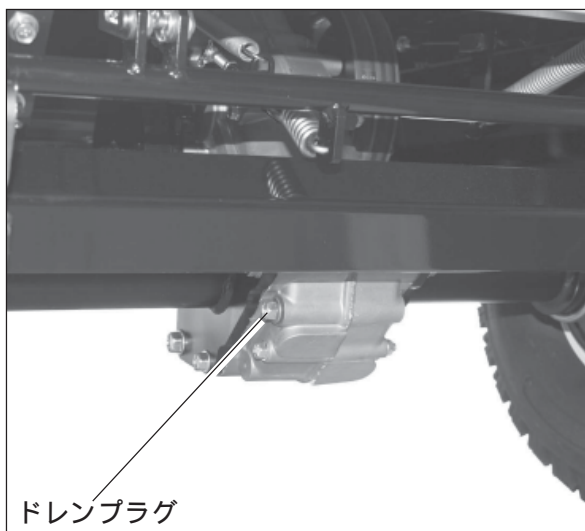
ミッションオイル

点検

油もれのないことを調べてください。

交換

走行ミッションケース下部にあるドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出し、(機体を傾けて排油してください。)こぼさないように容器に受けてください。給油は、規定量(2.5L)入れてください。



油圧オイル

点検

油もれのないことを確認してください。



交換

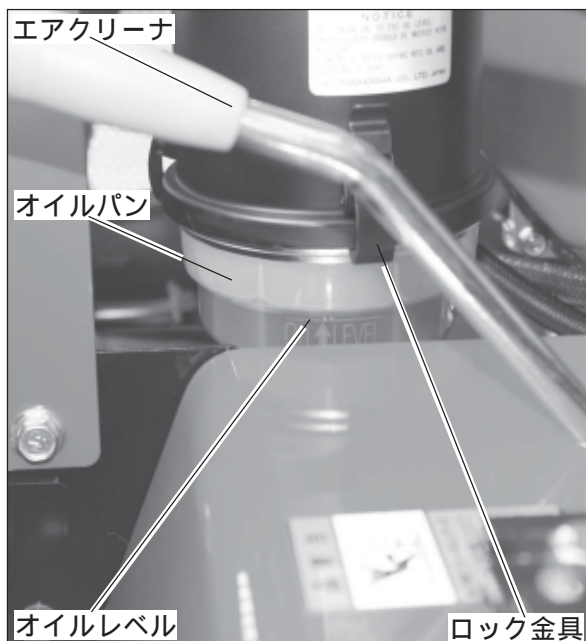
油圧パッケージのオイルタンクを外して、汚れたオイルを流し出します。給油は、規定量(4.0L)まで入れてください。

4. エアクリーナの点検・洗淨のしかた

エアクリーナは、いつもエンジンを快適にする装置です。汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

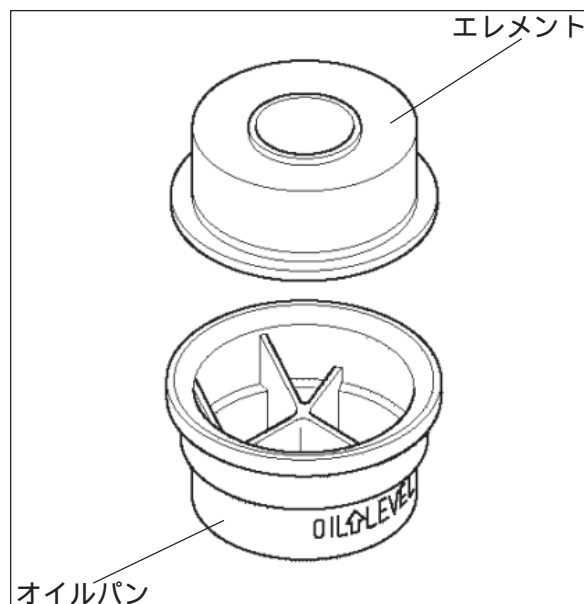
点検

オイルがオイルレベルまであるか確認してください。少なければエアクリーナのオイルパンを外して、エンジンオイルをオイルレベルまで補給してください。汚れがひどいときは、オイルパン・エレメントを洗淨し、オイルを交換してください。



洗淨

エアクリーナのロック金具を外してオイルパンを取外します。



オイルパン・エレメントを灯油で洗淨します。

新しいエンジンオイルにエレメントを浸し、滴下しない程度に振りおとすか、または絞ってください。

オイルパンに新しいエンジンオイルをオイルレベルまで入れてエアクリーナを元通りに取付けてください。

5. 燃料こし器の掃除のしかた

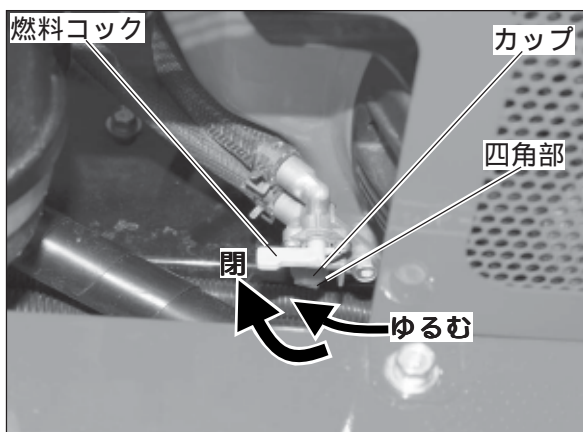
⚠ 危険

燃料コックが「開」になったままで燃料こし器を外しますと、燃料タンク内の燃料が流れ出ます。万一、引火した場合、火災のおそれがありますので、必ず、燃料コックを「閉」にしてください。

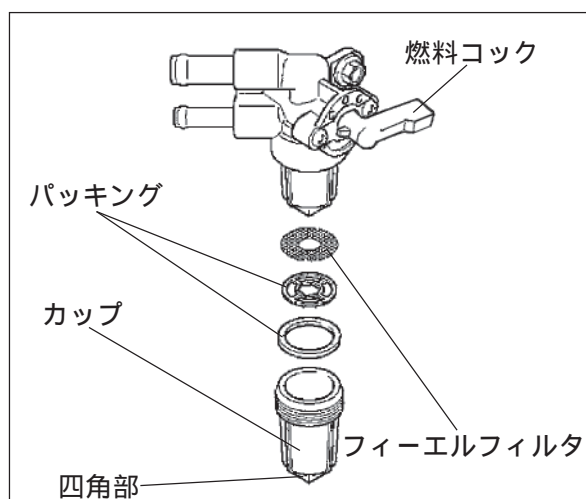
燃料の中に入ったゴミや水が、燃料こし器に沈殿したときは、燃料こし器を外してゴミや水を抜取ってください。

燃料コックを「閉」にします。

カップ下部の四角部を10mmのスパナなどでゆるめて外します。



カップのゴミや水を取除き、フィルターフィルタの目詰まりを掃除します。



カップを元に戻して確実に取付けます。

[重要]

ゴミや水の混入が多い場合は、燃料を抜取り、新しい燃料と交換してください。

6. 燃料ホース・電気配線の点検のしかた

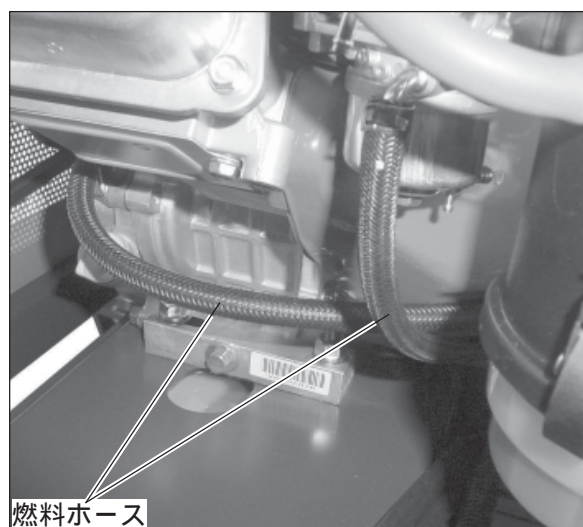
⚠ 危険

燃料ホースの老化や傷による燃料もれがあると、火災の原因になります。作業前後に点検し、もれがあれば交換してください。

⚠ 注意

配線コードに付着している芝カスやゴミは、作業前後にきれいに取除いてください。守らないと、火災の原因となることがあります。

燃料ホースの傷や接続部の締付けバンドのゆるみ、燃料もれがないか確認してください。また、電気配線コードが他の部品に接触していないか点検します。燃料ホースや電気配線コードが傷んでいる場合は、販売店に修理を依頼してください。燃料ホースは傷んでいなくても2年毎に交換するようにしてください。電気配線は1年毎に定期点検を受けてください。



7. 点火プラグの点検のしかた

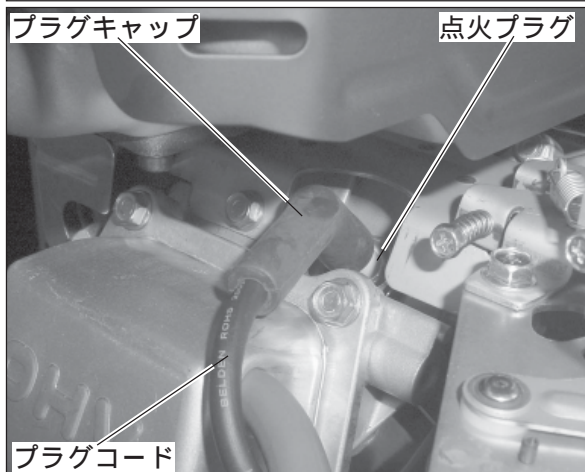
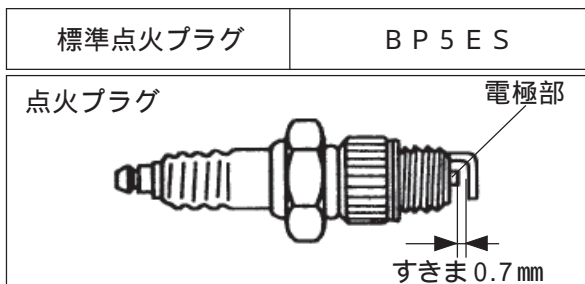
⚠ 注意

エンジンが熱いうちに点火プラグを外さないでください。火傷のおそれがありますので、エンジンが冷えてから行ってください。

定期的に点火プラグを外し、電極部の焼け具合、損耗程度を点検し、ワイヤブラシで清掃します。

電極部のすきまは0.7mmに調整してください。

始動不良、運転中の失火は点火プラグの電極すきまが大きすぎても少なすぎても、点火プラグが汚れたときにもおこります。



[重要]

電極部の清掃、電極すきまの調整をしてもまだエンジンのかかりが悪い場合は、お買い上げいただいた販売店で点検を受けてください。

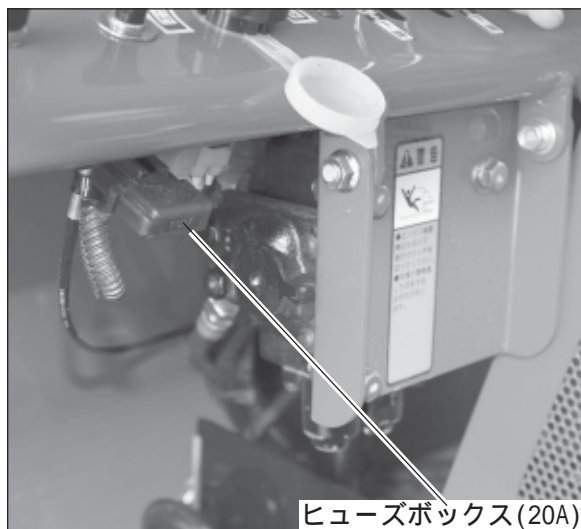
電極部が損耗または、破損したものは新品と交換してください。そのまま使用するとエンジンの不調、燃料のムダ使い、排ガス不良となります。

プラグコード・プラグキャップは点火プラグに確実に差込んでください。

8. ヒューズの点検・交換のしかた

ヒューズは、配線回路(通電している回路)へ過大電流が流れた場合、溶断して電流を遮断します。

チョークノブの下にヒューズボックスがあります。ヒューズ(20A)切れの場合は、交換してください。



[重要]

ヒューズを交換するときは、バッテリーの(−)側コードを外してから、必ず規定容量のものと交換してください。規定容量以外のヒューズを使用すると故障の原因になります。

ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた販売店で点検を受けてください。

9 . バッテリーの点検、整備のしかた

⚠ 危険

バッテリーの点検・充電時は火気厳禁です。守らないと引火爆発し、火傷を負うおそれがあります。

バッテリー液は希硫酸ですので身体や服に付くと、服が破れたり、火傷を負うことがあります。もし、身体や服に付いたときは、すぐに水洗いをしてください。

バッテリーからコードを外すときは、必ず⊖側から外し、取付けるときは、必ず⊕側から取付けてください。工具などが接触したときにショートして、火傷や火災事故をまねくおそれがあります。

バッテリー⊕ターミナルのゴムブーツは必ず取付けておいてください。ショートすると火傷や火災事故をまねくおそれがあります。

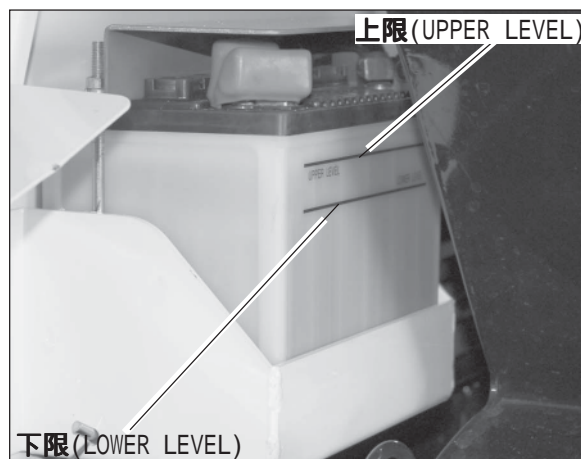
バッテリー充電中は、ガスが発生しますので風通しの良い場所で行ってください。

⚠ 警告

バッテリー液は液面レベルの「上限」と「下限」の間にあることを確認してください。もし「下限」以下になると、容器内の極板接続部が露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

バッテリー液点検

作業前には、各槽のバッテリー液がバッテリーケース液面レベルの**上限**(UPPER LEVEL)と**下限**(LOWER LEVEL)の間にあるか確認してください。点検は、荷箱をハイダンプさせ、荷箱落下防止金具をセットしてから確認してください。不足しているときは、蒸留水を補給してください。



蒸留水はガソリンスタンドで販売しています。

補充電のしかた

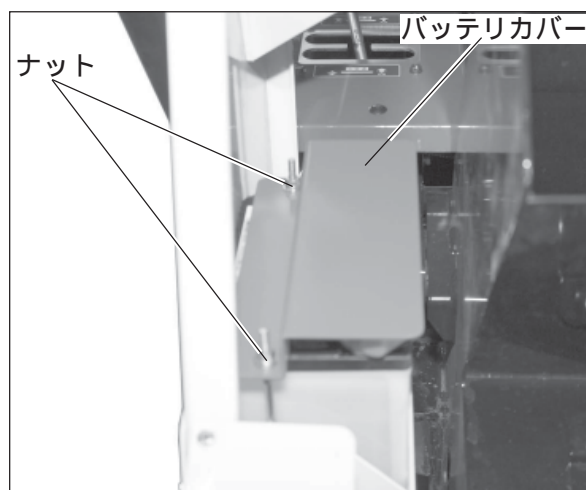
荷箱をハイダンプさせ、荷箱落下防止金具をセットします。

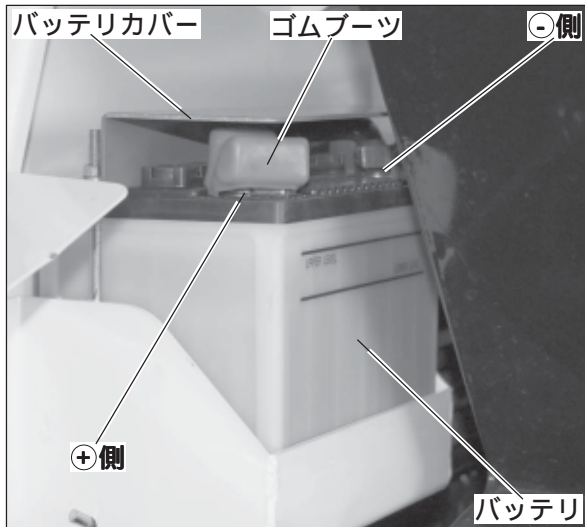
バッテリーカバーのナットをゆるめ、バッテリーカバーを取外します。

バッテリーの⊖側のコードを取外し、次に⊕側のコードを取外してバッテリーを取出します。

[指定バッテリー]

指定バッテリー	30A19R
---------	--------





充電は、バッテリーの⊕を充電器の⊕側に、バッテリーの⊖を充電器の⊖側に接続して行いますが、詳しくは、充電器の取扱説明書を十分お読みになってから行ってください。

なお、急速充電はできるだけ避けて、普通充電を行ってください。

バッテリーを取付けるときは、取外しの逆の手順で行ってください。

格納のしかた

格納時は、本機を水平にし、バッテリー液がこぼれないようにしてください。
長期格納時は、バッテリーの⊖側のコードを取外すか、バッテリーを本機から取外し、日光が当たらない、乾燥した場所に保管してください。

[重要]

バッテリー液は、常に規定量を保ってください。

バッテリー液をバッテリーケース液面レベルの上限を超えるほど入れますと、使用中に液もれし、本機を腐食させることがありますので、補給するときは、液面レベル上限を超えないように注意してください。

寒冷地などの気温の低い地域、またエンジンの始動がしにくくなったり、ライトが暗くなってきましたら、補充電を行ってください。また、2週間以上運転しないと、バッテリーが放電してセルモータでの始動ができない場合があります。このときにも補充電をしてください。

本機を長時間使用しないときは、最低1ヶ月に1回は補充電を行ってください。バッテリーが長持ちします。

取付けのとき、ターミナル接続部の油などを布でふき取り、バッテリー端子を確実に締付けて、腐食防止のためにターミナル部にグリスを塗布してください。

バッテリーを交換するときは、必ず規定のバッテリーを使用してください。

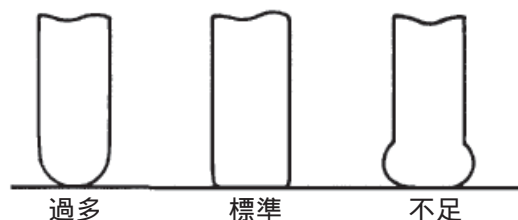
環境保全のため、交換した古いバッテリーは放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリーを購入した店へ渡してください。

10. タイヤ空気圧の調整のしかた

⚠ 注意

左右の空気圧が均等になっていないと運転中にハンドルを取られることがあります。タイヤの空気圧を標準空気圧に調整してください。また、タイヤに亀裂などがいないか確認してください。

タイヤサイズ	空気圧KPa (kgf/cm ²)
前輪タイヤ 18×7.00-8 2 P R P D	1 0 0 (1.0)
後輪タイヤ 20×10.00-8 4 P R P D	2 0 0 (2.0)
フレックスタイヤ H C S 2.50-4 4 P R	3 5 0 (3.5)

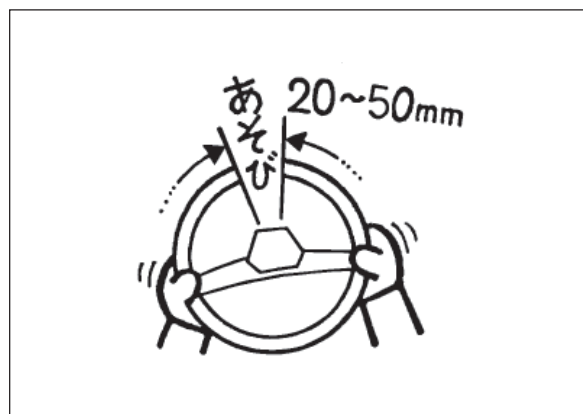


11. ハンドルの点検のしかた

⚠ 警告

ハンドルに著しくガタや遊びがないように点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

ハンドルを軽く左右に動かしたときの遊び量が20～50mmの範囲であるか確認してください。遊び量が適正でない場合は、お買上げいただいた販売店で点検、調整を受けてください。



12. ブレーキの点検のしかた

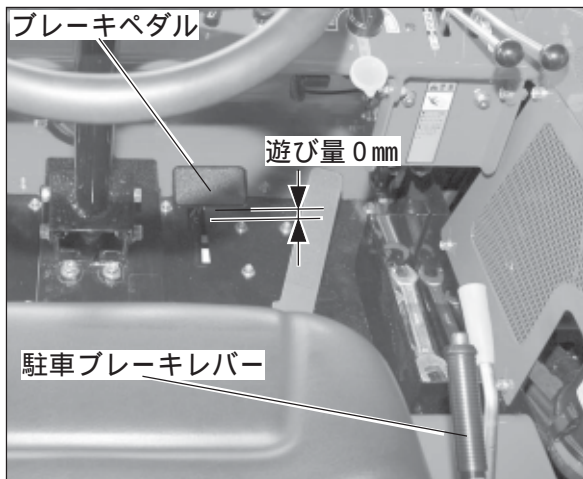
警告

ブレーキの効きが悪かったり、ブレーキが効いたままにならないように点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

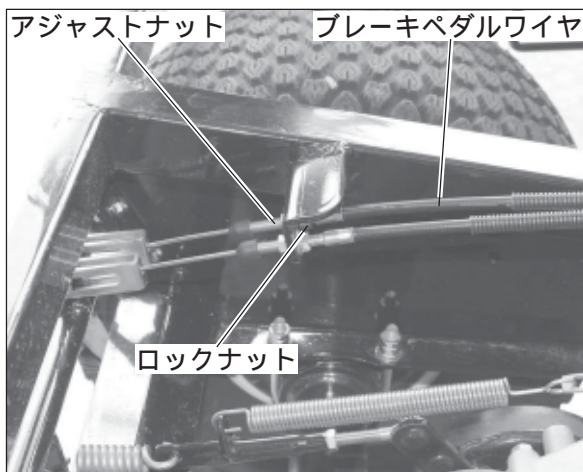
左右の車軸ブレーキが調整不良ですと、ブレーキの片効きが生じます。常に、左右の効きが同一であるようにしてください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

ブレーキペダルの点検のしかた

駐車ブレーキレバーを「解除」位置にしたときにブレーキペダルに遊びがでていないか確認してください。



遊びがでた場合、遊びが0mmになるように後輪左タイヤ側にあるアジャストナットでブレーキペダルワイヤを調整します。



調整についてはお買い上げいただいた販売店にご依頼ください。

駐車ブレーキレバーの点検のしかた

警告

駐車ブレーキレバーの調整は、必ずブレーキペダルの調整をしてから行ってください。守らないと、ブレーキペダルを踏んでもブレーキが効かず、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

ブレーキ調整を行う際は、ブレーキが解除の状態になりますので水平な場所で車止めをして行ってください。守らないと機体が自然に動きだし、思わぬ事故がおき大変危険です。

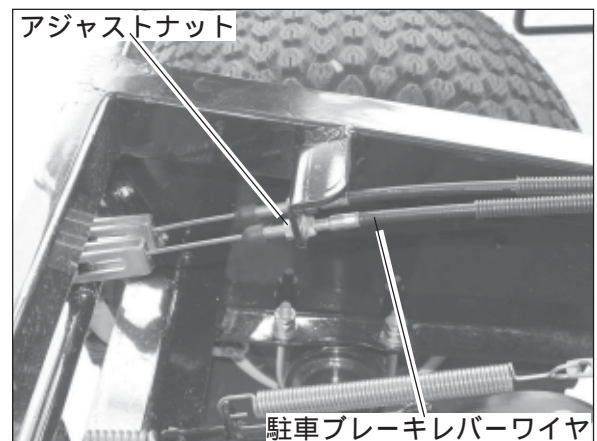
点検

駐車ブレーキレバーを引いて、駐車ブレーキレバーのロックがおよそ5～6ノッチで止まるか確認してください。

調整

「12. ブレーキペダルの点検のしかた」(P 62 参照)により、先にブレーキペダルの調整を行ってください。

駐車ブレーキレバーを引いて、駐車ブレーキレバーのロックがおよそ5～6ノッチで止まるように後輪左タイヤ側にある駐車ブレーキレバーワイヤのアジャストナットで調整します。



駐車ブレーキレバーワイヤのアジャストナットを確実に締付けます。

調整についてはお買い上げいただいた販売店にご依頼ください。

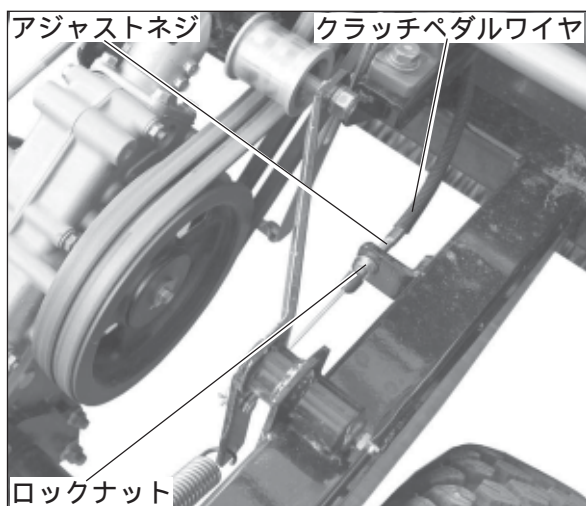
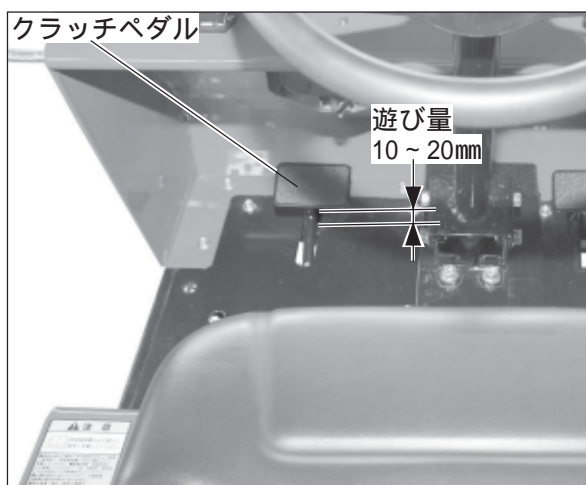
駐車ブレーキレバー調整後の注意

駐車ブレーキレバーの調整を行ったあとはエンジンを始動せず駐車ブレーキレバーを「解除」位置にし、主変速レバーを「N(中立)」位置の状態機体を押して動くことを確認してください。

13. クラッチペダルの 点検のしかた

点検

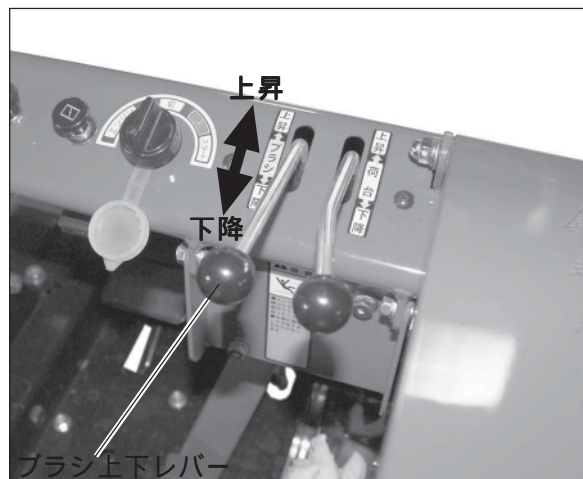
「入」、「切」が確実に行われ、しかも「切」状態でベルトつれ回りがいいか点検してください。クラッチペダルの遊び量(10～20mm)を調べてください。規定の遊び量がない場合は、クラッチペダルワイヤで調整します。調整についてはお買い上げいただいた販売店にご依頼ください。



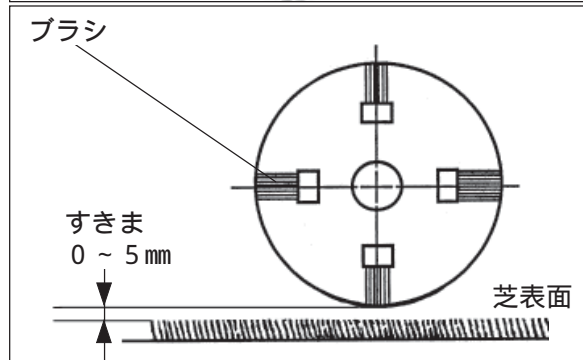
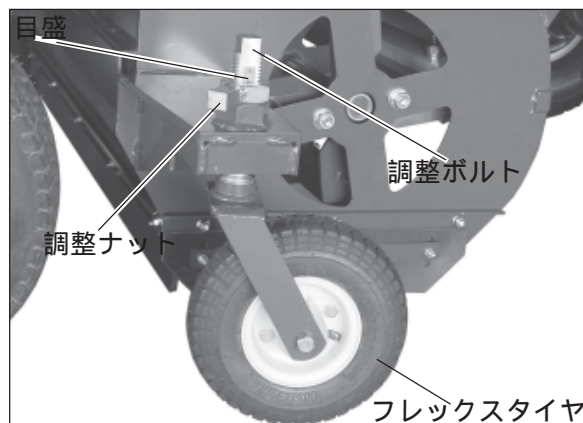
14. ブラシの点検・ 交換のしかた

点検

ブラシ上下レバーを「下降」方向へ操作し、油圧ポンプのリリーフ音がするまでブラシを下げてください。



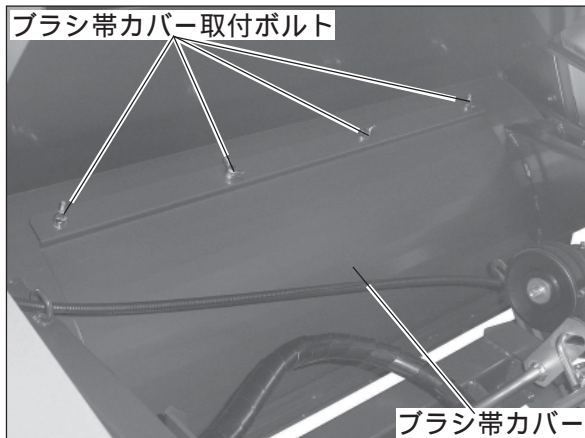
ブラシの高さを調整ナットでブラシと芝生のすきまが0～5mmになるように左右のフレックスタイヤを調整ボルトの目盛を目安にセットしてください。もし調整しらがなければブラシを交換してください。



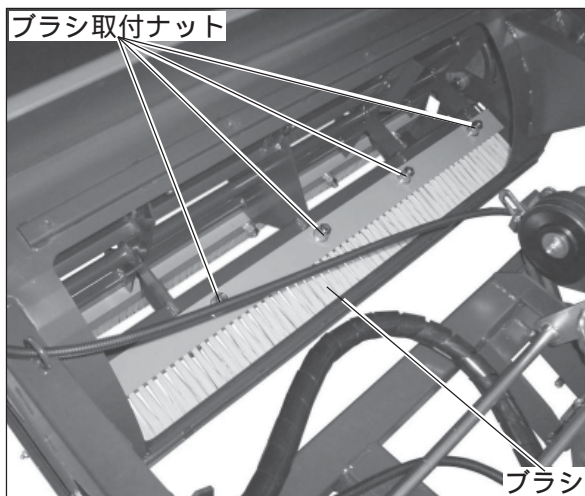
ブラシの高さは、左右同じにしてください。

交換

荷箱下のブラシ帯のカバーをボルトをゆるめて取外します。



ブラシ取付ナットをゆるめて取外し、新しいブラシと交換し、ブラシ取付ナットで確実に締付けてください。



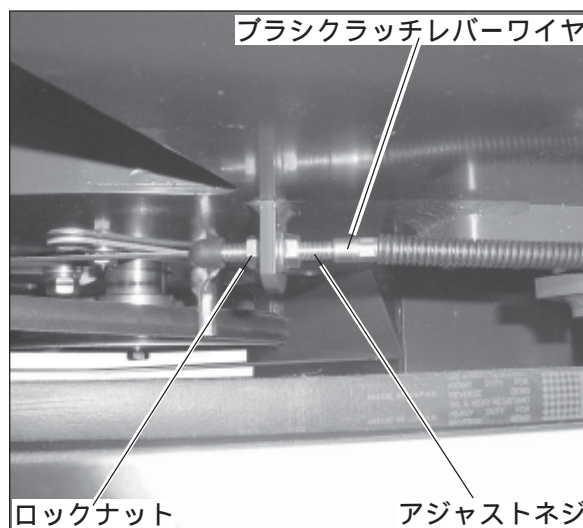
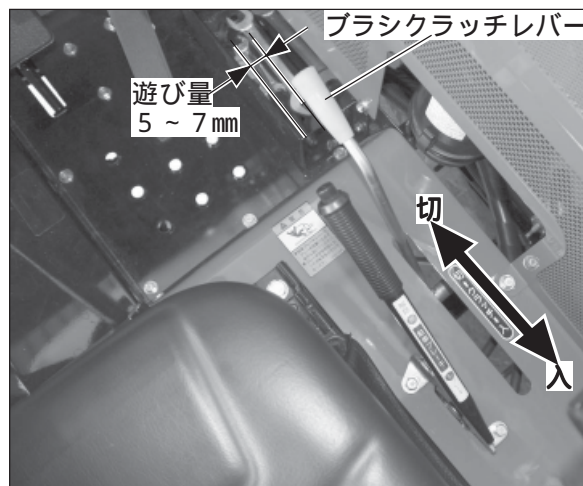
ブラシの交換後は、必ずカバーを取付けて元通りにしてください。

ブラシを交換する場合は、一度に全部のブラシを交換してください。

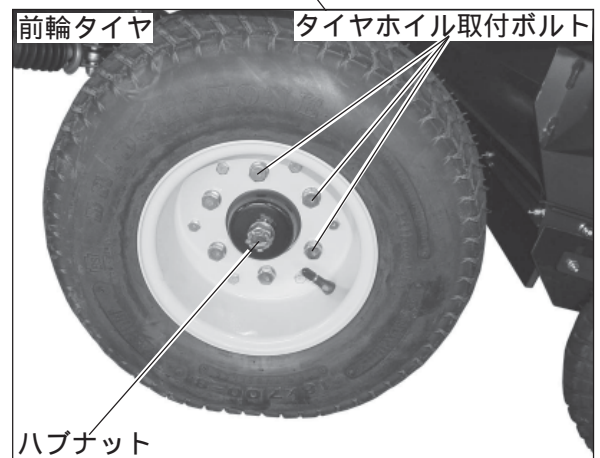
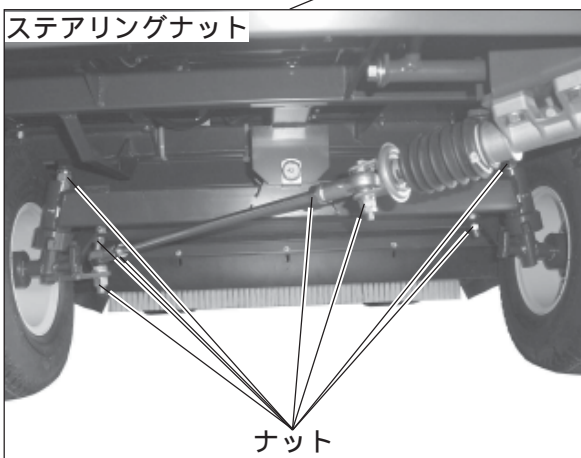
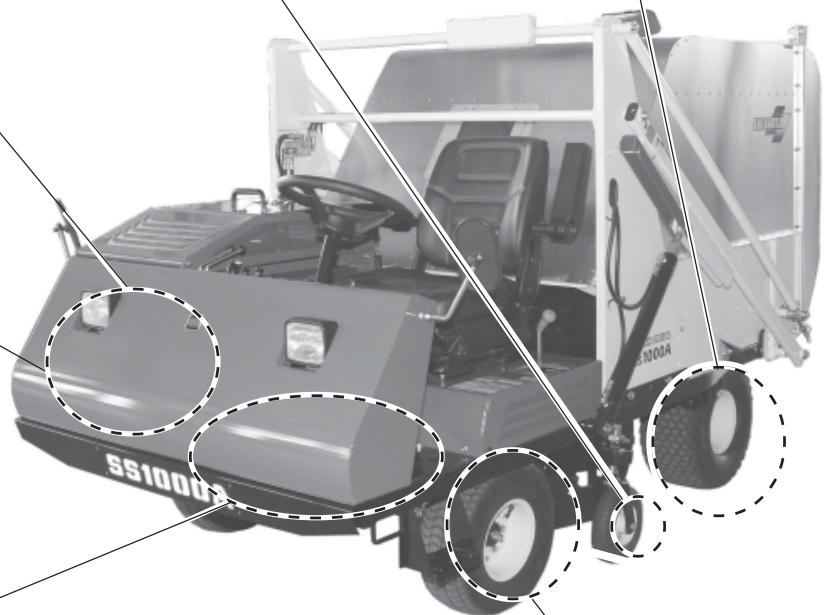
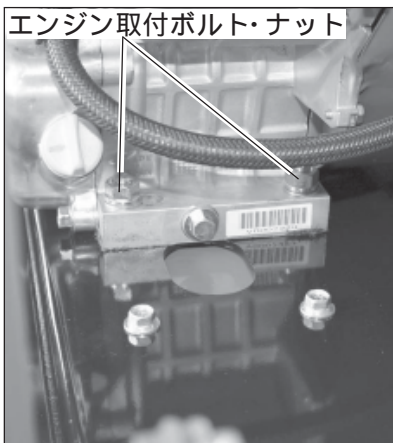
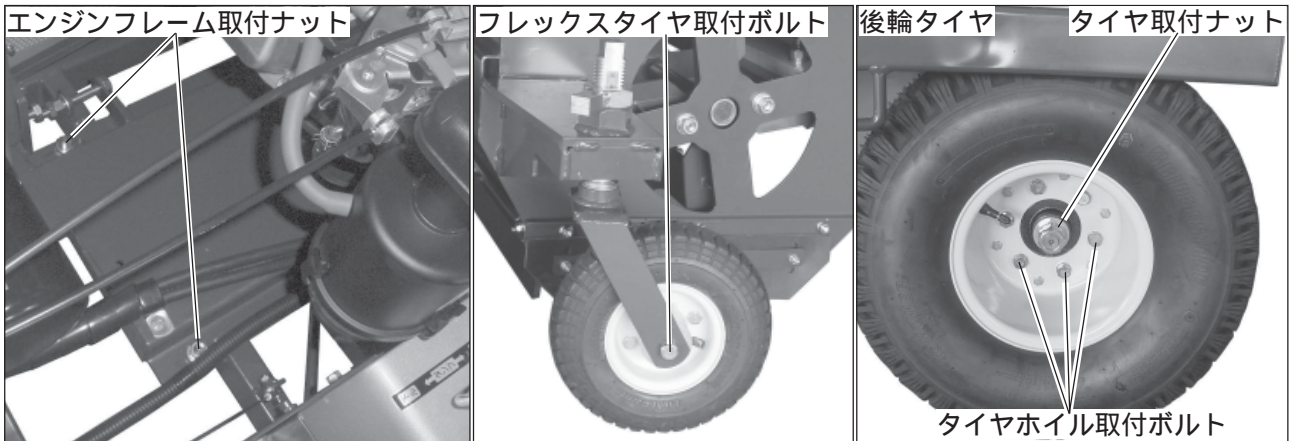
15. ブラシクラッチレバーの点検のしかた

点検

「入」、「切」が確実に行われ、しかも「切」状態でベルトつれ回りがいいか点検してください。ブラシクラッチレバーを「切」位置にして、ブラシクラッチレバーの遊び量(5~7mm)を調べてください。規定の遊び量がない場合は、遊び量が5mmになるようにブラシクラッチレバーワイヤを調節します。調節については販売店にご依頼ください。



16. 締付けするところ



前輪タイヤ・後輪タイヤホイール取付ボルト・ハブナット・フレックスタイヤは左右に、エンジンフレーム取付ボルト・ナット・エンジン取付ボルト・ナットも前後にそれぞれあります。
この他のボルト、ナットも時々点検し、増締めしてください。

⚠ 警告

機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、ブラシクラッチレバーを「切」位置にし、駐車ブレーキレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてから診断してください。守らないと、回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。

下記の処置をしても改善されないときは、最寄の販売店に連絡してください。

1. エンジンがかからない

この確認をしてください。	処 置	参照ページ
燃料が切れていませんか。	燃料の補給をしてください。	3 0
購入後 1 ヶ月以上経過した燃料を使用していませんか。	燃料タンク・キャブレタ内の燃料を抜き、新しい燃料を補給をしてください。	4 8
クラッチペダルを踏込んでいないのではありませんか。	クラッチペダルを完全に踏込んでクラッチを「切」にしてから、キースイッチを「スタート」位置に回してください。	3 2
エンジンの始動手順が間違っていますか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	3 2
燃料に水が入っていませんか。	燃料こし器に水が溜まっていれば、燃料こし器を外して水抜きをしてください。	5 7
バッテリーが上がっていませんか。	バッテリーを点検し、補充電をしてください。	5 9
バッテリー液が減っていませんか。	バッテリー液を補充してください。	5 9
ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。	5 8
点火プラグが悪くなっていますか。	点火プラグを外し、乾いた布などでよく乾燥させてください。	5 8
	点火プラグの電極部を清掃し、電極すきまを調整してください。それでもかからない場合は、販売店に相談してください。	5 8

2 . エンジンの力がない

この確認をしてください。	処 置	参照ページ
エアクリーナにゴミが詰まっていますか。	エレメントを交換してください。	5 6
エンジンオイルが少なくなっていますか。	エンジンオイルを補給してください。また、オイルが古くなっている場合は、新しいオイルと交換してください。	5 4
積荷が重すぎませんか。	坂道では特に積荷を軽くしてください。	3 8
ベルトがスリップしたり張りすぎたりしていませんか。	販売店で点検、調整を受けてください。	6 3
エンジンの回転は上がりますか。	アクセルレバーの取付位置や、アクセルワイヤのセット位置が動いていたら、必ず販売店で点検・調整を受けてください。	
エンジンの圧縮がないのではありませんか。	ピストンリングなどの磨耗も考えられますので、販売店に相談してください。	

3 . 各部に振動が多い

この確認をしてください。	処 置	参照ページ
エンジンが振れるのではありませんか。	エンジン取付ボルトを強く締付けてください。	6 5
ハンドルが振れるのではありませんか。	販売店に相談してください。	6 1

8章 その他

1. 主要諸元

型 式 名		SS1000A		
機 体 寸 法	全 長 (mm)	2880		
	全 幅 (mm)	1600		
	全 高 (mm)	1680		
	最低地上高 (mm)	135		
機 体 質 量 (kg)		750		
工 機 種 類	型 式 名		三菱エンジン GB400PE-420	
	種 類		空冷4サイクル 1シリンダー ガソリン	
	最大出力 {kW(ps)}		9.5(13.0)	
	総排気量 {L(cc)}		0.391(391)	
	始 動 方 法		セルモータ式(リコイルスタータ式)	
	燃料/タンク容量 (L)		自動車用無鉛ガソリン/6.0	
伝 動 部 走 行 部	変 速 段 数		前進3段 後進1段	
	走行 速度 (km/h)	前 進	1速	4.0
			2速	9.0
			3速	14.0
	後 進	R速	4.0	
		タイヤ	前 輪	18×7.00-8 2PR PD
	後 輪		20×10.00-8 4PR PD	
	輪距 (mm)	前 輪	1020	
		後 輪	880	
	軸 距 (mm)		1400	
ブレーキ型式/取付位置		内部拡張式/(後2輪 180&センターブレーキ 126)		
荷 箱	容 量 (m ³)		1.0	
	最大積載量 (kg)		250	
	ダンプ装置形式		油圧ハイリフトダンプ式	

この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

2. 主要消耗部品

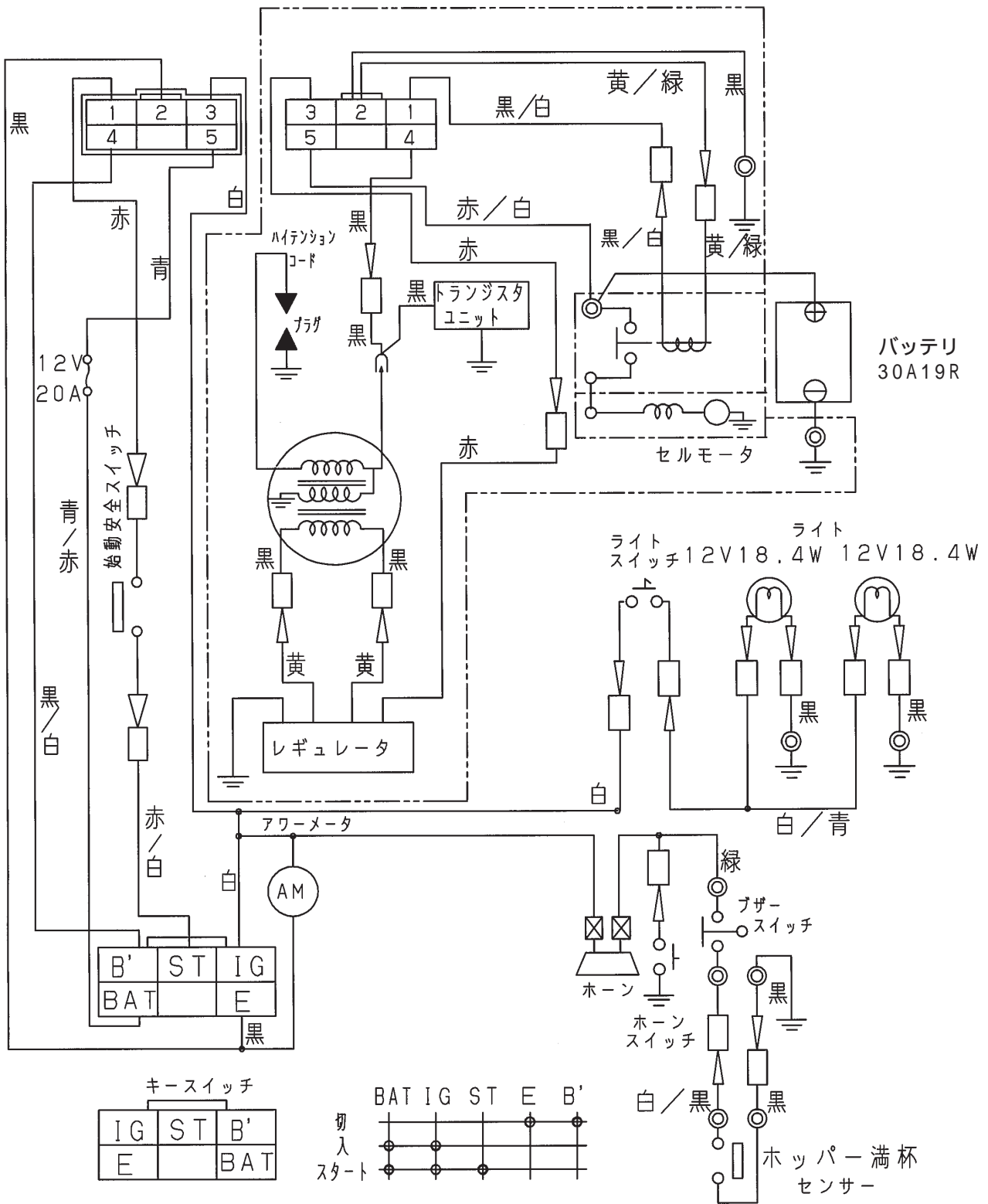
NO.	品名	部品番号	備考
1	VベルトS B 8 4	2 5 1 2 3 - 0 0 8 4 0 1	2本(エンジン~中間軸)
2	VベルトS B 4 2	2 5 1 2 3 - 0 0 4 2 0 1	2本(中間軸~ミッション)
3	VベルトS B 5 8	2 5 1 2 3 - 0 0 5 8 0 1	(中間軸~ブラシプーリ)
4	VベルトS B 5 5	2 5 1 2 3 - 0 0 5 5 0 1	(エンジン~油圧パッケージ)
5	スロットルワイヤ	1 E 1 1 6 5 - 5 1 0 0 0	アクセルレバー
6	スロットルワイヤA	1 E 1 1 6 5 - 5 1 0 2 0	アクセルペダル
7	コントロールワイヤC	1 E 1 1 6 5 - 4 2 1 8 1	クラッチペダル
8	コントロールワイヤB 1	1 E 1 1 6 2 - 4 2 0 5 0	ブレーキペダル
9	コントロールワイヤB 2	1 E 1 1 6 2 - 4 2 0 6 0	駐車ブレーキレバー
1 0	コントロールワイヤA	1 E 1 1 6 5 - 7 1 1 5 0	ブラシクラッチレバー
1 1	タイヤ 18×7.00-8 2PR PD	1 E 1 1 0 2 - 3 7 0 0 0	2本 前輪
1 2	タイヤ 20×10.00-8 4PR PD	1 E 1 1 0 2 - 3 7 0 5 0	2本 後輪
1 3	タイヤ HCS2.50-4	T B 0 0 1 1 - 3 7 0 0 0	2本 フレックスタイヤ
1 4	ナイロンブラシ	1 E 1 1 6 5 - 7 2 0 0 0	4本
1 5	センターブレーキシューA S Y	7 N 1 3 1 3 - 2 5 0 1 0	
1 6	ブレーキシューA S Y	7 N 1 2 1 0 - 2 7 0 4 0	
1 7	バッテリー 3 0 A 1 9 R	1 N 1 2 8 6 - 5 1 0 9 0	
1 8	点火プラグ B P 5 E S (NGK製)	F R 4 6 9 0 3 A	
1 9	エアクリーナエレメント	K A 0 1 0 6 1 A A 0 0 2	

付属品

	品名	個数	部品番号	備考
1	スクリュドライバ	1	K N 1 3 0 0 1 A A	
2	ボックススパナ	1	K N 1 2 0 0 4 E A	
3	取扱説明書	1	1 E 1 1 6 2 - 9 5 0 4 0	
4	保証書	1		

9章 電気回路図

三菱エンジンGB400PE-420





株式会社IHIシバウラ

トラクタ・グリーン事業部

お問い合わせ先

〒390-8714 長野県松本市石芝 1-1-1 TEL.0263 88)0200 FAX.0263 2(6)7517